

かつらぎ町天野 丹生家文書目録

目次

丹生家文書目録解題

一 伝来と受け入れの経緯	1
二 丹生都比売神社について	1
三 丹生家について	3
四 天野村について	6
五 資料群の概要と調査・整理について	7
六 目録編成について	8
七 保存箱について	18
八 関連物品資料について	18
九 その他の利用資料と参考文献	20

丹生家文書目録

卷子	22
丹生都比売神社	
由緒	33
宝物	33
年中行事	33
祭祀・祈禱	34
遷宮	35
社領支配・配当	36

丹生家

社領収納・下行	37
社家	38
日記	39
争論	40
高野山	41
旧記写	42
二之宮祝子	
祭祀	45
祈禱	46
惣神主代勤	46
祝詞	47
講	48
檀那	48
補任・社役入	49
配当米	49
日御供料	49
高室院御恩金	51
神道説	
吉田神道	51
三輪神道・御流神道	51
伊勢神道	53
その他	55
他社奉仕	

丹生家

下天野八幡宮	55
上天野岡村天満宮	57
下天野子聖権現	58
教良寺大明神	58
古佐布大明神	58
その他	60
争論	
吉田家裁許状一件	60
相続願書・木祭神役ほか一件	63
二之宮代勤一件	65
社役滞り一件	65
南院様御供調進一件	66
久留里藩黒田家	66
書状	71
近代資料	72
丹生相見家	
系図	73
資料目録	74
相続	74
婚姻	75
勸進・合力	
年預拝借金	75
学侶行人相对勸化	76

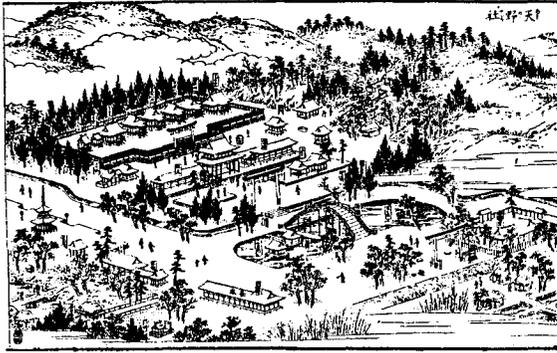
装束・神事道具等勸進	77
明神講	77
売買貸借	78
頼母子	79
普請	80
水汲・道通し請書	81
争論	82
高野山御用	
安楽川荘奥家尼岡争論	82
上州清水寺	83
巡検・登山	84
藪庄屋	84
差紙	84
年貢	84
大念仏講	86
書状	86
近代資料	88
天野村	89
その他	90
写本・版本	91
丹生家文書目録 編年	93

丹生家文書目録解題

一 伝来と受け入れの経緯

丹生家文書は、和歌山市東高松在住の丹生廣良氏所蔵資料六五五点（親番号による）の総称である。

丹生家は、伊都郡かつらぎ町天野に鎮座する丹生都比売神社の社家を勤めた家である。明治以前は丹生相見とも称し、丹生都比売神社第二殿の高野神子大神（高野明神）を祭る神職として代々丹生都比売神社に奉仕してきた。明治以降も丹生都比売神社・隅田八幡神社の神職を勤め、また一時期、伊都郡書記・天野村長の職にもあった。そのた



境内全景（『紀伊名所図会』より）

め丹生都比売神社の由緒・祭礼・社領や丹生家の神職活動に関する資料、明治以降の神職・官吏の辞令書等が残されている。

丹生家文書は長く天野の丹生家本宅の土蔵におさめられていたが、現当主丹生廣良氏が和歌山市へ転出された後、土蔵の破損や保管上の不安などから和歌山市内の自宅へ移されていた。

平成五年八月、文書館開館

丹生家

と同じくして県指定文化財となっている卷子十巻の寄託を受け、同年十二月には卷子六巻の、さらに平成七年十月には近世近代資料を中心に追加寄託を受けた。

二 丹生都比売神社について

丹生都比売神社は『延喜式神名帳』では名神大社に列し、月次祭・新嘗祭の奉幣に預かり、中世には一宮とも称された大社である。境内の朱塗りの反り橋をわたると、重要文化財に指定された楼門があり（写真1）、その奥に同じく重要文化財の四棟の本殿（写真2）がある。それぞれの本殿には、以下の祭神が祭られている。

第一殿 丹生都比売大神（丹生明神）

第二殿 高野御子大神（高野明神）

第三殿 大食都比売大神（氣比明神）

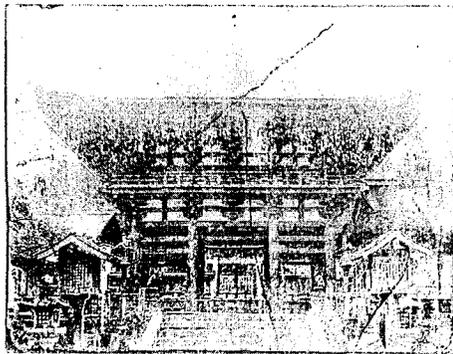


写真1 解体修理前の楼門（丹生廣良氏提供）



写真2 本殿

第四殿 市杵島比売大神（蔽島明神）

丹生都比売神社の鎮座については不明な部分が多く（第三・四殿は承元二年八一二〇八ノ行勝上人の勸請と伝える）、『播磨国風土記』の逸文は、神功皇后の新羅征伐に神威を發し、紀伊国管川藤代峯（現高野町上筒香附近）に鎮座したと伝える。また丹生都比売神社に伝わる「丹生大明神告門」では、丹生都比売大神は庵田村の石口（かつらぎ町三谷の丹生酒殿神社といわれる）に降臨し、大和国紀伊国巡幸の後、天野の地に鎮座したと伝える。これらの伝承をもとに丹生都比売神社の創建について、丹生川水銀に注目し、水銀の発掘・生産にかかわる氏族との関係を指摘する説や、日前・国懸宮の司祭者であった紀氏とのかかわりを重視し、源祭祀の狩狐信仰に海神的性格を持つ丹生明神が習合し創建されたとする説等がある。

空海により弘仁七年（八一六）に金剛峰寺が開かれて以降は、丹生都比売神社と高野山は不可分の関係にあった。それは「御手印縁起」や『今昔物語』に見える丹生明神から弘法大師が神域を譲り受けたという伝承の存在からも明らかである。大きな流れを見れば、高野山は丹生都比売神社を支配下に組み込むことによって、自己の勢力の拡大をはかっていったのである。

天正十三年（一五八五）の豊臣秀吉の紀州攻めにさいしては、高野山はいち早く恭順の意を示し、また木食庇其の働きもあって戦火を免れた。天正十九年（一五九二）の高野山の検地の後、寺領として二万一千石が与えられ、慶安二年（一六四九）にさらに三百石が寄進され、二万一千三百石の石高が所領として確定する。丹生都比売神社に与えられていた種々の祭祀料や、弘安七年（一二八四）に元寇の恩賞とし

て寄進された近木荘（現大阪府貝塚市）は没収され、丹生都比売神社は高野山寺領からの配分を受けることになった。『紀伊続風土記』によれば、学侶方より一六五石五斗の、行人方より三六石一斗二升の配分を受けていた。

明治元年（一八六八）の一連の神仏分離令により境内の仏教施設は一掃され、丹生都比売神社は高野山から独立することになったが、相互の関係は今日まで続いている。明治六年（一八七三）に県社に列し、大正十三年（一九二四）には官幣大社に昇格した。

江戸時代には年五十三度の祭祀が執行されていたが、現在は祈年祭（二月十七日）花盛祭（四月第三日曜日）神還祭（七月十八日）など年九度の祭祀が行われ、一月第三日曜（もと十四日）の「御田祭」（写真3）は県の無形民俗文化財に指定されている。

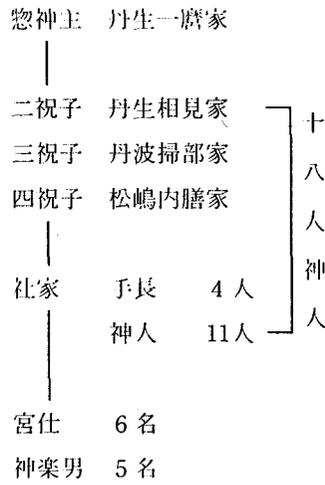
○

『日本書紀』神功紀に見える「天野祝」は丹生都比売神社にかかわる「ハフリ」（神職）と考えられるが、具体的な存在状況は分からない。応永三十二年（一四二五）の「和泉国近木庄相折帳」（宝簡集十九）になつてようやく祭祀組織の一端を知ることができる。同資料によれ



写真3 御田祭 稲刈りの場面

ば院主・供僧・惣神主・二宮祝・三宮祝・四宮祝・禰宜等の社僧神職がいたことが分かる。『紀伊統風土記』には惣神主を筆頭に以下のよ
うな神職がいたと記す。

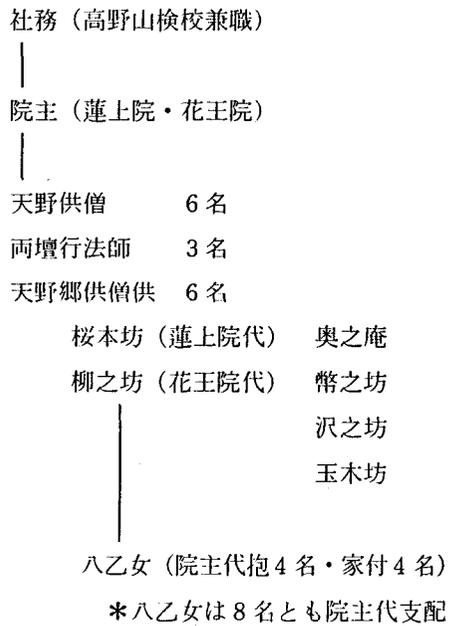


惣神主（丹生一磨家）は第一殿の祭祀を預かり、社事を司る立場にもあった。二祝子（丹生相見家）三祝子（丹波掃部家）四祝子（松嶋内膳家）はそれぞれ第二殿・第三殿・第四殿の祭祀を預かった。社家十五軒の内手長四名はお供え取次役、神人十一人はお供え調進役を勤める。二祝子以下の十八名を十八人神人といった。宮仕は剃髪で駈仕役を勤め拜殿を預かった。

丹生都比売神社の社務を総括する社務職は、高野山検校の兼務であった。社務の下に院主（蓮上院・花王院の二院）がおかれていた。社務・院主以下の諸職を『紀伊統風土記』は以下のように記している。

丹生家

三 丹生家について



丹生家の系譜にかんしては、延暦十九年（八〇〇）の年紀をもつ『丹生祝氏本系帳』（写真4）があり、田中卓氏による考証がある。豊耳命の子が小牟久君で、小牟久君の子が丹生麻呂首と麻布良首（丹生祝姓を賜う）の二家に分かれる。丹生麻呂首の子、小佐非直の子孫が丹生相見家の祖となり、麻布良首の子孫が惣神主丹生一磨家の祖となるといふ。豊耳命までは日前・国懸宮の神職である紀国造家の系図と同一であり、両家の連携の存在をうかがわせる。

今回目録におさめた丹生家文書に深くかわる義久以降の系図を、か一十一二「丹生氏系図」、つ一二五「丹生神主系図」から復元すると以下のようになる。

義久・義継・廣真の代は、吉田家裁許状取得に始まる惣神主家との

丹生家系図

始祖 天魂命

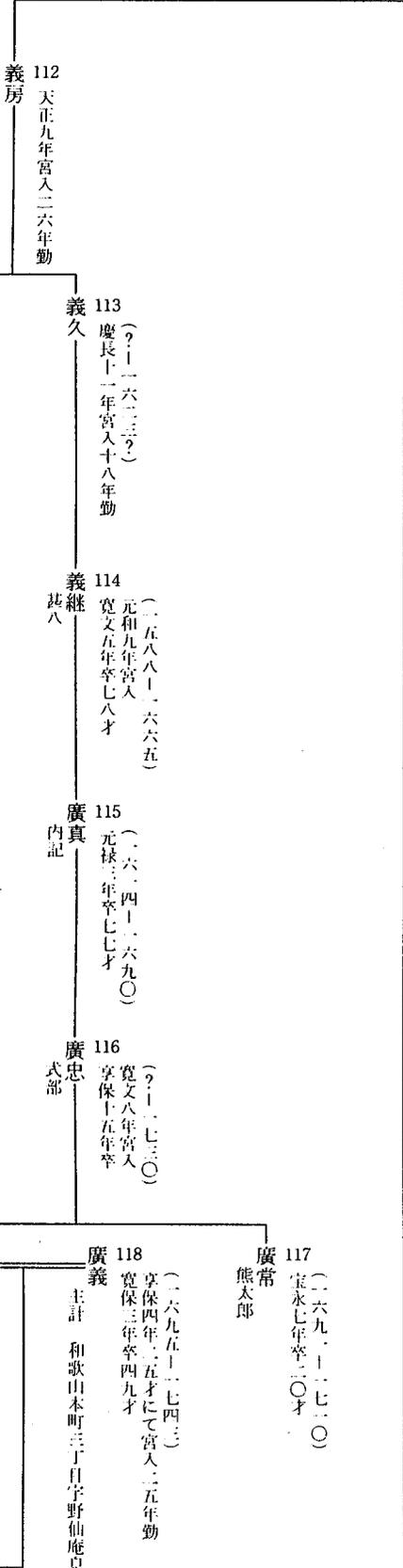
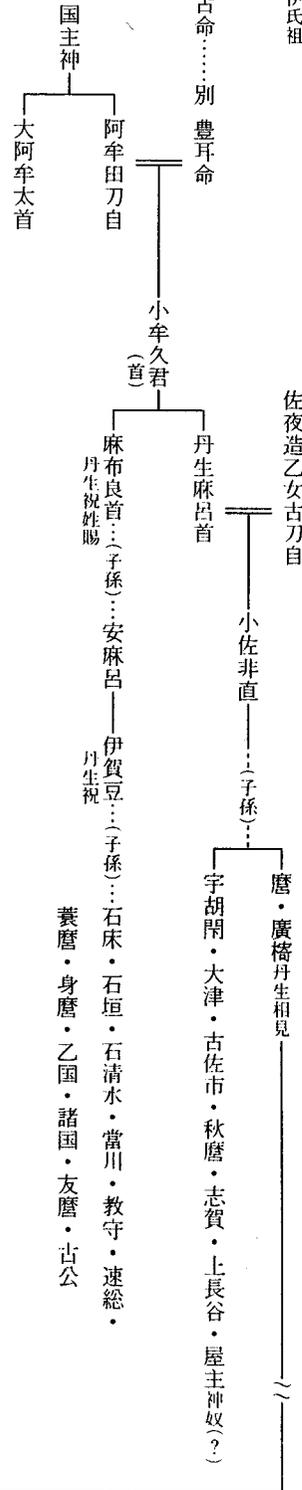
次 高御魂命 大伴氏之祖

次 血速魂命 中臣氏之祖

次 安魂命 門部連等祖

次 神魂命 紀伊氏祖

次最兄 宇遲比古命……別 豊耳命



義重
栗栖三之丞

義継
甚八

廣真
内記

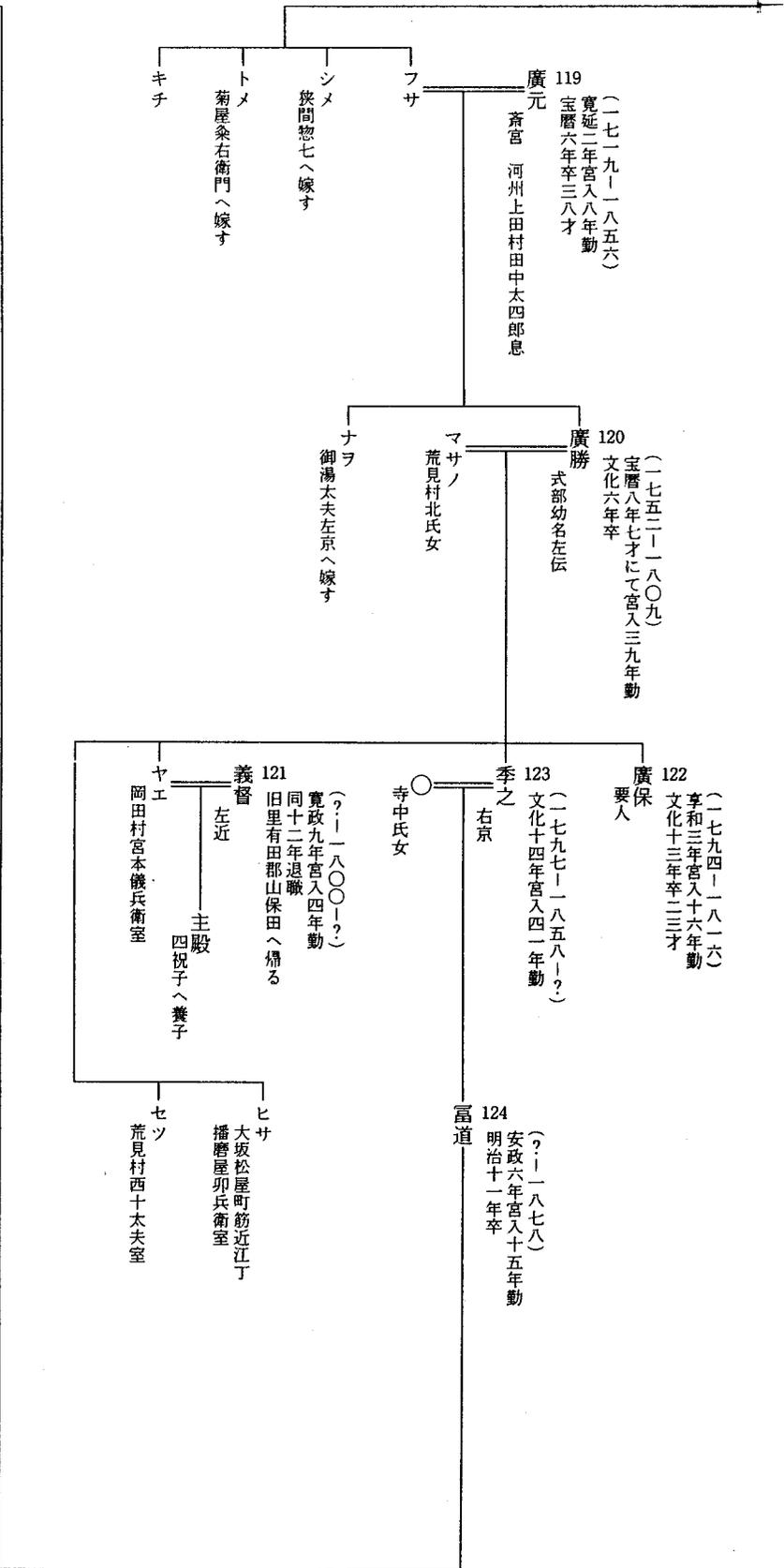
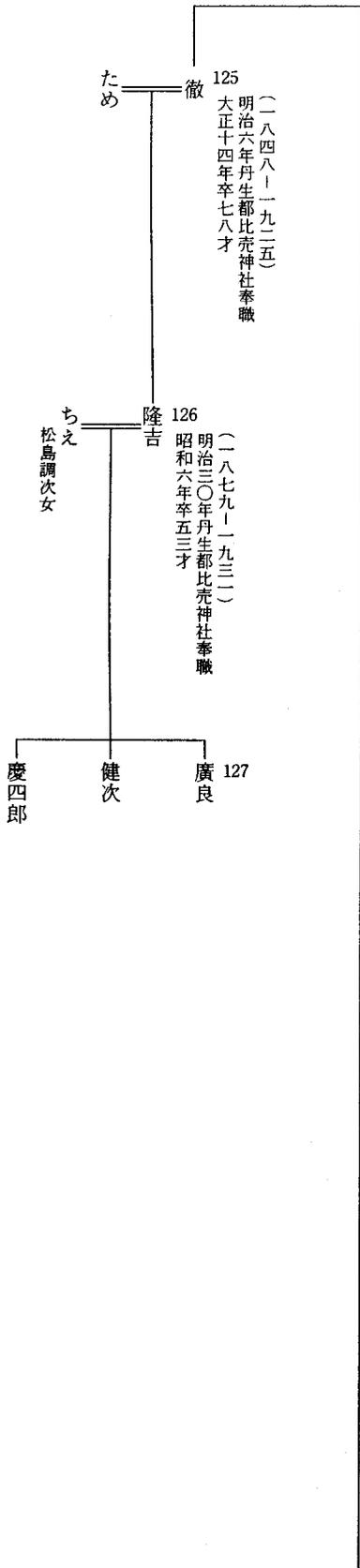
廣忠
式部

クメ
狭間喜平治へ嫁す

タン

廣義

廣常
熊太郎



争論があった。争論決着後、廣真
は寛文二年（一六六二）に宮入の
沙汰がだされた様であるが、結局
寛文八年（一六六八）になって廣
真嫡子の廣忠が二之宮祝子として
宮入をしている。廣忠の代には、
安楽川莊公文奥家と庄中の争論の
仲裁を高野山から命じられている。
享保三年（一七一八）には廣忠か
ら廣義への相続にともない、また
木祭神役等をめぐって惣神主家と
の争論が起こっている。

廣勝・義督・廣保・季之の代は
家督が短期間で相続されていた。
宝暦八年（一七五八）に宮入した
廣勝は、寛政八年（一七九六）有
田郡山保田（現有田郡清水町）か
ら迎えた娘やえの婿、義督に家督
を譲った。しかし義督は寛政十二
年（一八〇〇）十二月職を辞し、
旧里へ帰った。そのうち廣勝の長
子である廣保（要人）が七才で家
督を継ぎ、享和三年（一八一三）
に宮入するが、廣保は文化十三年



写真4 丹生祝氏本系帳

（一八一六）に二十三才で死去した。廣保妻は父寺中庄蔵と相談し、
大谷村（現かつらぎ町大谷か）岸田平安のもとで医者として働いてい
た、廣保弟の季之（右京）に家督を継がせることにしたのである。

丹生家文書の伝来を考える上で、この季之は重要な立場にある。丹
生家文書中には季之の書写にかかる資料が散見し、現在伝わる丹生家
文書保存箱は、季之によって天保七年（一八三六）に調整されている
のである。

現当主廣良氏も家職である丹生都比売神社の神職を勤め、伝来の丹
生家文書の保存に尽力されてきた。廣良氏の働きにより、丹生家文書
の内、卷子十巻が「丹生廣良氏所蔵天野文書」として、和歌山県指定
文化財に指定されている。また同氏は丹生神社史・丹生一族氏の研究
者として丹生家文書を詳細に調査・研究され、多くの成果を発表され
ている。それらは、著書『丹生神社と丹生氏の研究』や『式内社調査
報告』第二十三巻（丹生都比売神社の項）にまとめられている。廣良
氏の実弟慶四郎氏も、分野は異なるが研究者として活躍しておられる。
慶四郎氏は計算機シミュレーションによる慣性核融合の物理学の権威
として東京工業大学、帝京平成大学で研究を続け、平成六年には英国
ケンブリッジの国際人名センターより国際功績勲章を贈られている。

四 天野村について

丹生都比売神社の鎮座するかつらぎ町天野は、高野山中腹にひらけ
た小盆地である。中世は天野社領六ヶ七郷の内、天野郷に属していた。
近世には高野山学侶領となり、上天野村・神田村・下天野村の三村が
天野荘と呼ばれていた。丹生都比売神社の社家は上天野村に居住し、

神田村は丹生都比売神社の御供田として社家の領であった。村の下部組織として「カイト（垣内）」があり、その枠組みは現在も機能している。

『紀伊続風土記』によれば、上天野村は石高二八石三斗七升六合、家数七四軒、人数三〇三人、神田村は石高一六石二斗五升三合、家数人数上天野村の内、下天野村は石高二五六石八斗六合、家数七五軒、人数三三七人とある。

明治以降は、高野山寺領の所属移転にともない明治二年（一八六九）に堺県、明治三年（一八七〇）に五条県に属し、明治四年（一八七二）に和歌山県に属する。明治二十二年（一八八九）に上天野村・神田村・下天野村の三村が合併して天野村となり、旧三村は大字となった。昭和三十年（一九五五）に見好村と合併し見好村と称し、昭和三十三年（一九五八）からはかつらぎ町に属することとなった。

五 資料群の概要と調査・整理について

丹生家文書の現状は大きく五つの群に分かれている。一は和歌山県文化財指定にともない成巻された資料、卷子全十六巻である。二は、近世資料を中心とした資料群で、合板製のタンスに収納されていた。三は文箱におさめられていた近世の書状類。四は封筒に一括されていた近代の辞令・証書等。五は丹生氏の自宅の書齋・応接間に額に入れて飾られていた資料群である。

整理にあたって、卷子には「か」の、タンス収納資料には「た」の、文箱入り書状類には「ふ」の、追加寄託で受け入れた近代の辞令証書等には「つ」の記号を与え整理を行った。自宅保管分は「し」の記号

を与え、目録作成のため一時寄託を受け整理を行った。後述するように、丹生家文書はたびたびの調査・閲覧利用により、原状は留めていないと判断された。そのため、寄託を受けた段階での状態を尊重し整理を行った。また、写真が残されていたり先行論文等に引用されながらも、丹生家文書中に原本を見いだせない資料も若干ではあるが存在した。

○

丹生家文書は当館にて整理を行う以前にたびたび調査・整理が行われている。

資料に「㊦」というように番号をふられた資料があり、これは近世のある段階での整理の痕跡と思われる。また季之による天保七年（一八三六）の保存箱調整のさいも評価選別が行われているだろう。

金剛峰寺編「高野山文書」全十二巻（出版は内七巻）の内の一として、丹生家文書の収録が企画されていた。そのため中田法寿氏により調査が行われている。赤ラベルが添付された資料があるが、これがこの時の調査によるものだという。

昭和三十七年には東京大学史料編纂所により、影写本が作成されている（かー四一―三、かー十一―一）。史料編纂所はこの後、平成八年にも調査を行っている。昭和三十九年の県文化財指定にともない、中世資料と近世資料の一部が成巻された。昭和五十一年から開始された『かつらぎ町史』編纂にともない、町史編集室によって初めて丹生家文書の全点が調査された。この調査後、分類項目ごとに資料を一括

し合板製タンスに収納された。

また、丹生廣良氏ご自身が自らの研究に利用され、閲覧を申し出た研究者には広く公開しておられた。

六 目録編成について

資料群の現状と内容を考慮して、まず以下の四項目をもうけた。

卷子

丹生都比売神社

二之宮祝子

丹生相見家

「卷子」は和歌山県指定文化財への指定にあわせて成巻されたものである。全部で十六巻あり、そのうち巻一巻から十巻までが昭和三十九年五月二十八日付で「丹生廣良氏所蔵天野文書」として和歌山県指定文化財（有第六十一号）の指定を受けている。簡単な解説は『和歌山県の文化財』第二巻にある。指定を受けた第一巻から十巻までは、中世・近世初期の資料が、第十一巻から第十六巻は高野山文書の写しが主である。卷子所載の資料目録はすでに丹生廣良氏自身によって公刊されているが、ここに再掲する。卷子所載資料の中には、関連資料が未成巻資料内に残されているものもあるので、以下の項に重複させた資料もある。

「丹生都比売神社」は神社全般にかかわる資料、社家の一員としての活動により残された資料を集めた。

「二之宮祝子」は丹生相見家の神職としての活動により残された資料を集めた。丹生都比売神社だけでなく、他神社への奉仕にかかわる

資料もここへおさめた。

「丹生相見家」は丹生家の家に関する資料である。

この四項目の下にさらに左表のような項目を設定した。以下各項目ごとの資料の概要を記す。

卷子

第一巻 丹生祝氏本系帳

延暦十九年（八〇〇）の年号をもつ「丹生祝氏本系帳」とその注釈書である。「本系帳」は田中卓氏による校訂と論考があり、『新撰姓氏録』編纂のため各氏から提出された本系帳の一であろうとされている。（写真は「三 丹生家について」を参照）

第二巻 承安四年解状并弘安四年補任状等

栗栖家に関する資料である。栗栖家は栗栖荘（現和歌山市栗栖）を本領とする荘官の系譜を引き、平安末期・鎌倉時代は在庁官人・西国御家人、近世は地土の家柄であった。栗栖家文書では、直川保久重名内松門名の開発に関する資料が著名であるが、かゝる一々の三点の資料がこれにあたる。目録作成にあたり、高野山大学に寄託されている物神主家伝来の資料である「丹生輝代磨家文書」を調査した。その中に以下のような資料があった。

覚

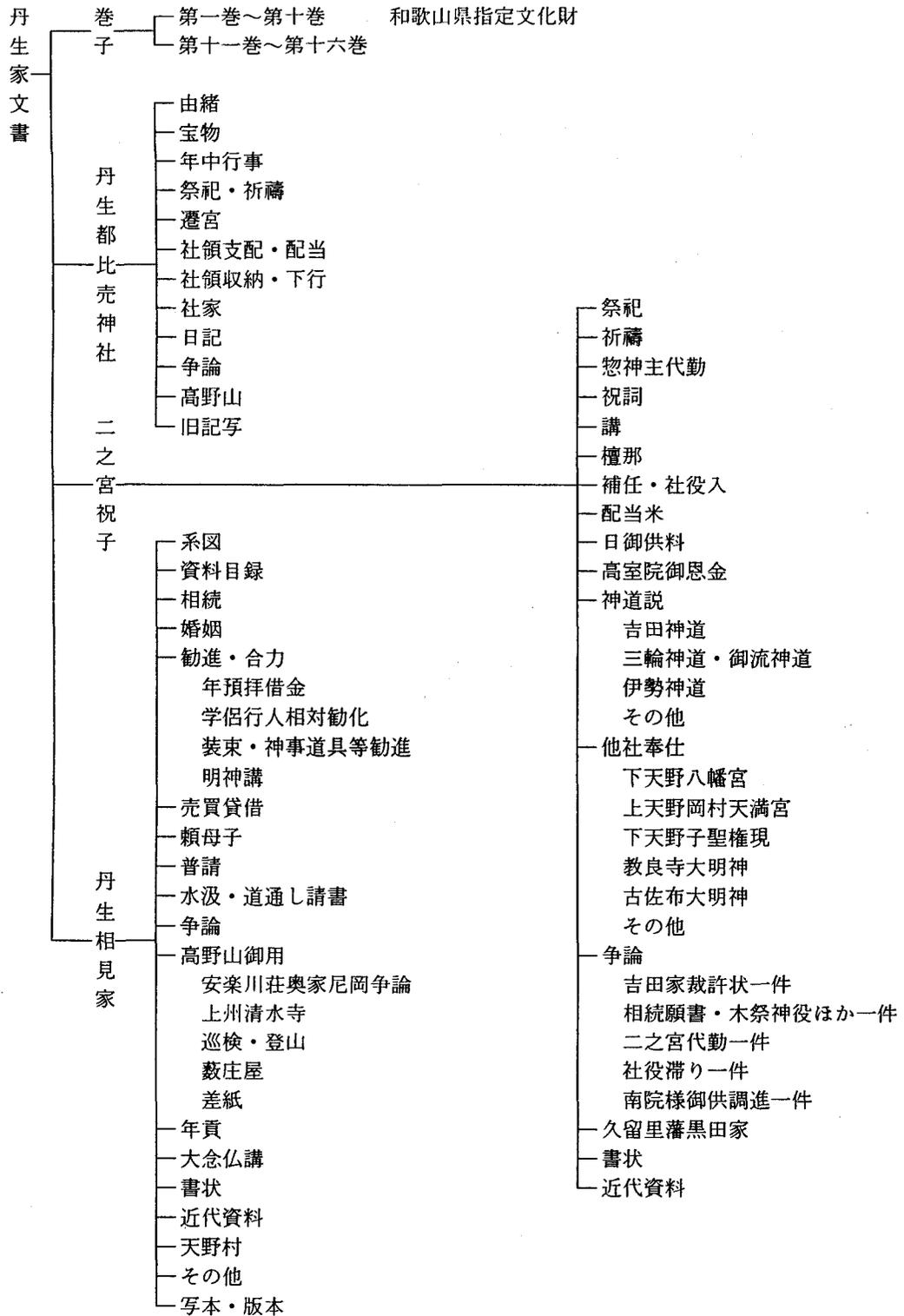
直義公御教書 一通

両六原 地頭代へ之書物 同断

基胤 神保次郎左衛門へ書物 同断

橋本新三郎請文 同断

丹生家文書目録項目



丹生家

千代楠丸連状

同断

小倉十郎左衛門請文

同断

六十谷四郎入道請文

同断

和佐雅楽入道請文

同断

合八通

右之通拙者家先祖より持来り候へ共其元家筋之古請文故此度任

御望還シ遣申候此外ニ右之筋之書物一通も無之候為念書付差添申

候已上

寛延四庚午八月晦日

天野宮

丹生相見廣元

栗栖六郎殿

参ル

丹生家が代々所持していた栗栖家にかかわる八通の資料を、望みによ
り返却したということであるが、この八通の資料は現在栗栖家にあり、
『和歌山県史』中世史料二「栗栖家文書」に、以下の資料番号で翻刻
されている。

一四 足利義詮御判御教書（？）

一一 六波羅御教書

一三 基胤奉書

六 清原頼長請文

九 松嶋村文書紛失状案（？）

四 小倉兼綱請文

七 沙弥淨妙請文

五 沙弥定宗請文

いつの頃からか丹生家には、さきの解状等と合わせて現在栗栖家文書
として伝わる資料の内の半数近くが伝来していたことになる。また現
在は所在不明で写真のみが残されているが、丹生家には以下のような
資料も伝えられていた。

（端裏書）
（四之祝子系図）

紀伊国松嶋松門名地頭職事如元知行不可有相違之状如件

応永七年五月十一日

（花押）（花押）

松嶋美濃守殿

端裏書は四祝子松嶋家の存在に影響されたための間違いであろう。
「松門名地頭職」に関する資料であるからこれも一連の栗栖家関係資
料である。

こうしてみると、卷子第二巻はすべて栗栖家にかかわる資料で
あった可能性がある。かゝる二十二で地頭に補任された「中務丞為実」
は「栗栖家系図」（東京大学史料編纂所影写本「栗栖文書」の内、
文書館蔵の写真版による）に見える「松嶋中務為実」であると思われ
る。栗栖荘は粉河寺の荘園であったことから、かゝる二三の粉河寺の
にかかわる資料が残されたとしても不思議ではあるまい。そして、かゝ
る二一四は栗栖家の所領のあったとされる「池田荘」の資料なのである。
丹生家と栗栖家は、義房次男義重が栗栖家を継いだと「丹生神主系
図」（ついで二五）には記されており、まったくの無関係ではなかった
ようである。

第三卷 天野造替日記

丹生都比売神社の遷宮に関する資料である。か―三―五のみ天野莊の氏神であった八幡神社に関する資料であると思われる。関連資料が「丹生都比売神社／遷宮」にもある。

第四卷 天野庄知行定置状

定書のほか、売券がおさめられている。売券のほとんどは『かつらぎ町史』古代・中世資料編に翻刻されている。

第五卷 丹生神社恒例勸請神明帳

第六卷 丹生明神御位階記 附丹生大明神告門

高野山文書の写しと丹生大明神告門（吉門とも記す）である。丹生大明神告門は丹生都比売神社に伝わる祝詞で、菅田（応神）天皇勅筆祭文とも称されている。告門には丹生大明神が天下り、天野の地に鎮座するまでの大和紀伊国巡幸の次第と、天皇から寄進された神領、封戸が書き上げられている。

第七卷 神道管領吉田裁許状

京都吉田家の発給した神道裁許状と、吉田兼英ほかの書状である。この裁許状をめぐる争論が起こっており、関連資料が「二之宮祝子／争論―吉田家裁許状一件」の項にある。

第八卷 天和二年開発新田寄進状等

八幡宮神主職にあった丹生相見家への八幡宮御供田の寄附状、新開田作人へ遣わした定め書きと、新開田への引水についての一札である。

「二之宮祝子／他社奉仕―下天野八幡宮」も参照のこと。

第九卷 慶長六年御立願状

第十卷 慶長十五年起請文

第十一卷 丹生祝氏籍記 并丹生神主家代々継系図

丹生家

第十二卷 享保三年公儀江差上願書

享保三年（一七一八）の相統願書・木祭神役等に関する争論の訴状と、嘉永六年（一八五三）の日御供料お下げの願書である。それぞれ関連資料が「二之宮祝子／争論」と「二之宮祝子／日御供料」にある。

第十三卷 正応六年太政官符 及御手印縁起・官符案文

か―十三―一の「高野山文書写」四点は本来、「丹生四所明神画像」（写真5）に付属していたものである。この掛け軸は現在県立博物館に寄託されており、裏書には以下のようにある

奉納置天野宮四所大明神異賊降伏尊影新補并正応六年太政官符直写一卷以附与丹生相見家擬後世之亀鏡是併倍增四社神威冀望人法隆盛者也檀主修禅院僧都法印懷英大阿闍梨御開眼導師前檢校大和尚有乘

画師防州産三宅後雪筆

表具師京都大経師吉右衛門尉

宝永六己丑年三月吉祥日



写真5 丹生四所明神画像

この裏書によれば、修禅院懷英が願主となり尊影と正応六年（一二九三）太政官符写しを丹生相見家に付与したとのことである。か一十三一二・三は、ともに広い意味で「御手印縁起」と呼ばれる資料である。

第十四卷 天野社参記 附皮張大明神縁起
 か一十四―一は寛文十一年（一六七二）三月八日、檢校宥専により再興された天野社参に関する記録である。か一十四―二「皮張大明神之縁起并祭礼由来記」は現在のかつらぎ町宮本の丹生神社の縁起である。

第十五卷 嘉元三年信日記 附論旨院宣寄進状

か一十五―一「天野明神口伝抄」は丹生都比売神社に関する口伝を集めたものであるが、これに懷英の私考が添えられている。か一十五―二「惣神主家文書写」は大半が加地宏江氏が紹介された「丹生古文書集」と同資料である。

第十六卷 丹生高野両大明神御位階記等

高野山文書の写しである。

丹生都比売神社

由緒 五点。丹生都比売神社の縁起・口伝・吉門（祝詞）をおさめた。

宝物 二点。

年中行事 十四点。年中行事書五点と、その添付資料。

祭祀 七点。丹生都比売神社の祭礼にかかわって残されたと思われる資料をおさめた。た一四五七「籠中入用帳」は二月と十一月の長谷宮行にさいしてのお籠もりの入用帳である。

遷宮 九点。遷宮記・遷宮日記に類する資料。

社領支配・配当 十五点。神田村を惣神主の進退とする旨の書付（た一〇五）と、社領の配分についての資料。

社領収納・下行 五点。社領からの納入と、惣神主から社家への下げ米の記録である。十一月十三日下げ渡し分を八月分下行、十二月二十三日下げ渡し分を中蔵下行という。長谷宮下行は二月十一月の長谷宮行にかかわる下行である。

社家 十六点。社家全般にかかわる資料をおさめた。た一一二・一九一には、享保三年の丹生相見家と惣神主の相続願書・木祭神役ほか争論裁許請書（た一二一五ほか）と、享保四年の惣神主家と学侶方の支配に関する争論裁許請書（た一九四）を享保四年四月十二日に社家を残らず召し寄せ読み聞かせたこと、享保七年の社職入り祓料減少の一札についての裁許状（た一九三）、元和六年と承応三年の神田村に関する書付（た一〇五）がまとめて記されている。ほか社家の夫役免許に関する資料がある。

日記 十点。留め書き・社家日記を集めた。帳面の字面を見ると、日々書き継いでいたのではなく、元本があつて、必要箇所をある時期まとめて写したと思われる。

争論 二十点。た一八六・一九四は享保四年（一一七一九）に丹生相見家と惣神主家の争論に引き続いて起こった、惣神主家の学侶方支配可否等についての争論の裁許請書である。「二之宮祝子／争論」も参照のこと。た一二四一以下は、親死去の節の惣神主への届け出、御膳洗い、神役の代人差し出し等についての惣神主と社家中との争論資料である。た一九二はこの争論の年預坊による裁許状である。

高野山 十五点。主として高野山にかかわる種々の資料を集めた。学侶行人争論により行人方の大処分を行った元禄五年（一六九二）の高野聖断、検校の天野社参再興に関する資料などがある。弘法大師空海に関する資料もここにおさめておいた。

旧記写 十四点。豊臣秀吉・徳川家康等の朱印状写し、宝簡集の写し等、文書の写しを集めた。

二之宮祝子

祭祀 四点。祭祀に関する備忘録、伝授書など。

祈禱 十点。たゞ一五以下は、元禄五年（一六九二）の高野聖断にいたる学侶と行人の争論において学侶方の勝利を願った祭文で、し—はその祈禱料の下げ渡し状である。ほか祈禱の依頼状等をおさめた。

惣神主代勤 五点。惣神主家督相続者の年少や職の取り上げにより、丹生相見家が惣神主職を兼務したさいの記録である。

祝詞 九点。たゞ一四七・八七は丹生相見家家伝の祭文である。

『高野春秋編年輯録』延久二年（一〇七〇）二月二十一日条に、「天王（後三条天皇）詔賜祝文於天野丹生相見祝文震筆板札
伝来于相見家」と記されている。

県立博物館寄託の笏（「八 関連物品資料について」を参照）がこの「祝文震筆板札」である。

講 九点。参宮講・御破講・月参講など、丹生都比売神社参詣にかかわる資料。

檀那 二点。丹生都比売神社のお札を配布する家々を書き上げた資料。

丹生家

補任・社役入 七点。主として丹生都比売神社への奉職に関する資料。

配当米 二点。丹生相見家に下げ渡される配当米の受け取りに関する資料。

日御供料 十六点。嘉永元年（一八四八）十一月に丹生相見右京季之が発意した、日御供料の寄附に関する資料。願いの結果、御供料の替わりとして冥加百両を差し出し、新田開発の許可がだされた。そして「大伽藍再建成就」のため、丹生相見家影向殿へ現米七石二斗の寄附状が発給された。

高室院御恩金 四点。慶応三年（一八六七）に高室院より拝借した金五十兩が、明治二年（一八六九）に丹生相見家に譲渡された。この金子にさらに十兩を加え田地を購入し、作徳米を相見家影向殿灯明料、先住玉智様御正当月四講料、門主現定長寿祈禱の布施とした一件に関する資料。

神道説

吉田神道 三点。京都吉田家の発給した神道裁許状である。この裁許状をめぐって争論が起こっている。「二之宮祝子／争論」も参照のこと。

三輪神道・御流神道 十七点。三輪神道・御流神道とも、真言密教系の両部神道に属する神道説である。三輪神道は奈良県大神神社の神宮寺であった平等寺・大御輪寺を中心に成立展開した神道説である。御流神道は奈良県室生寺の円海により十四世紀ごろ組織化されたと考えられ、近世に入り高野山の日光院英仙によって、集成され伝えられていった神道説である。たゞ一四四七のみ三輪神道に関する資料で

ある。たー三〇・四二三も両部神道にかかわる資料と思われるが詳細は分からない。

伊勢神道 二十七点。伊勢神道書の写本。

その他 四点。御幣雛形、神道説の抜き書きである。詳細は不明であるが何らかの神道説にかかわる資料と思われるのでここにおさめた。

他社奉仕

下天野八幡宮 十八点。下天野八幡宮は天野荘三村（上天野村・

神田村・下天野村）の氏神で、日々の社務は神宮寺である延命寺の僧が執行していた。丹生相見家は八幡神社主職を所持し、遷宮のさいに奉仕していた。かー八一には八幡宮神主にあった丹生相見家への八幡宮御供田の寄附状である。下天野村字折芝の新開田の内一反二畝を寄附し、神主を交代しても田地は相見家が所持することと記されている。ほか遷宮祭祝詞、遷宮執行をめぐる延命寺との争論、御供田の小作に関する資料がある。

上天野岡村天満宮 十一點。現在の北村垣内に合併した旧岡村垣内の氏神と思われる。上天野村字吐朱瀉にあった。遷宮祝詞、遷宮記がある。

下天野子聖権現 四点。子聖権現は寛政十年（一七九八）に南院唯仁を導師として下天野に勧請された。寛政十二年（一八〇〇）三月には丹生相見家は子聖権現の鍵預かりとなった。その後、四月九日に南院ほかに相談し子聖権現を般若大権現と名を改め、丹生家屋敷内に遷宮した。これが新規のこととされ年預からの料問を受けることになった。この四点はこの一件にかかわる資料である。

教良寺大明神 五点。教良寺村は現在のかつらぎ町字教良寺で、八幡神社が氏神である。遷宮祝詞がある。

古佐布大明神 十五点。古佐布大明神は古佐布荘（現九度山町

上古沢・中古沢・下古沢）の氏神で、現在の上古沢にある古沢殿島神社のことである。遷宮祝詞と、遷宮執行についての丹生相見家と神宮寺との争論に関する資料がある。

その他 六点。たー五〇は現在の高野町東富貴、丹生神社の遷

宮祝詞である。たー五二は下天野村、現在のかつらぎ町天野の下居（おおり）垣内の氏神柳沢明神の、たー五八も同じく下天野村、現在のかつらぎ町天野の峯垣内の氏神八王子神社に関する資料である。たー六七・四六五は現在のかつらぎ町星川の八王子神社の遷宮祝詞である。たー一一一は現在のかつらぎ町東浜田の蟻通神社である。

争論

吉田家裁許状一件 三十二点。慶長十六年（一六一一）の丹生相見義久の吉田家裁許状取得に始まる惣神主家との争論に関する資料をおさめた。丹生相見家が吉田家裁許状により装束を着用したこと、祝詞奏上・奉幣、社家初出仕の祓いに関することが争点となった。

相統願書・木祭神役ほか一件 二十五点。惣神主が丹生相見家の相統にともない、新規に相統願書差し出しを求め争論となった。ほか丹生相見家の役であった木祭神役を三祝子に申し付けたこと、神前玉垣の鍵を開けなかったこと、丹生氏の名乗りと左巴紋の使用を停止させたこと、惣神主が塗木履・朱唐立を用いていること等が争点となった。木（鬼）祭は毎年二月十一月の十三日に丹生相見家が執行する祭礼で、本殿西側、御供所内の竈殿で丹生相見による祝詞奏上の後、丹

生相見が四・五人の社人を引き連れ神社近辺を巡拝するという祭礼である。

二之宮代勤一件 一点。

社役滞り一件 四点。廣義の隠居、廣元の養子相続にともない起こった争論に関する資料である。廣義が自らの隠居の旨を惣神主方へ届けていなかったため惣神主より異議が出、延享五年（一七四八）に隠居の節はその旨を惣神主へも届けることでひとまず解決した。その後、惣神主は廣元の宮入を認めなかったため寛延二年（一七四九）にさらに裁許がだされている。

南院様御供調進一件 五点。惣神主他行中、権檢校南院よりのお供えを相見が一宮二宮へ供えたことへ惣神主より異議が出、争論となった一件に関する資料である。

久留里藩黒田家 六十三点。寛保二年（一七四二）、上州沼田（群馬県沼田市）三万石の城主であった黒田直純が久留里藩主として移封される。久留里藩は現在の千葉県君津市にあり、黒田家は廃藩置県まで久留里藩主として存続した。残された資料の大部分は、藩主の命を受けた御用人連署による年賀の礼状である。たゞ一五五「〔社家諸事日記〕」に「同年（享保十七年八一七三二〇か）十月下旬神主江戸より帰り被申候、黒田豊前守様より祈念料并中山備前殿より祈念料此時より付キ申候」とあり、黒田家と中山家の二家が丹生都比売神社に祈念料（祈禱料か）を奉納していた。「中山備前」は水戸藩の家老であった中山家である。黒田家・中山家とも武蔵七党の丹治氏の流れを汲む。「丹生系図」を見ると、丹生真人、照元と続き、次の代の丹生家信が「宣化天皇九代之後從三位宮内卿丹治家義之男也」とあり、

丹生家

丹治家から丹生家へ養子として入ったと伝えている。かゝる十四二「皮張大明神之縁起并祭礼由来記」ではこの家信は「犬山師宮内太郎家信」と号し、高野大神が高皇産神の娘袴幡千々姫をめとり産んだ子で、弘法大師空海を高野山へ案内した狩人であるという。このような丹生家との養子縁組や、高野山とかかわる伝承があったため、丹生都比売神社を信仰することになったようであり、黒田家は久留里城中に丹生神社を祭っていた。

書状 十二点。丹生相見家の神職としての活動により残されたとと思われる書状を集めた。

近代資料 十点。明治・大正期の社職任命書、俸給証書等を集めた。

丹生相見家

系図 十一點。

資料目録 二點。

相続 九點。相続にともなう祝儀の遣わし状、丹生家へ養子に入つた斎宮の宗旨送り状の写し、遺書等である。家督の相続は当然、家職である二之宮祝子の職をも相続することになるが、丹生都比売神社への奉職に関する資料は「二之宮祝子／補任・社役入」を参照のこと。

婚姻 六點。和歌山の藤井唯三郎を養子として迎えた一件に関する資料と、丹生恵十郎の婚礼祝儀帳。

勸進・合力

年預拝借金 四點。父廣勝死去にともなう借財整理のため、家督を継いだ廣保が年預より二十兩を拝借した一件にかかわる資料であ

る。

学侶行人相對勸化 十二点。文化十四年（一八一七）の季之宮入にさいして行われた学侶行人への勸化に関する資料を集めた。この勸化の経緯は、「高野勸化日並」（た一三七四）に詳しい。文化十三年（一九一六）閏八月十二日に廣保（要人）が死去し、医師であった弟の季之（右京）に跡を継がすことになった。まず拝借金の年賦を願ひ出（た一五八一―）、次に過去の勸進帳（た一三七二・三五六）を証拠書類として添付し、学侶方に勸化願（た一五八一―）を提出、相對勸化御免となる。そこで西重太夫、菊谷栄助に頼み、二月二十一日から七月二十四日にかけて学侶方を勸化して廻った（た一四一七一―）。行人方は勸化の先例がないため一度は断られたが、再願し（た一五八一―三）相對勸化御免となったのである。

装束・神事道具等勸進 八点。装束・神事道具の勸進に関する資料である。た一三七八は、季之宮入にさいしての勸化である。

明神講 六点。相見家窮乏助成のために企てられた「明神講」に関する資料である。

売買貸借 二十一点。

頼母子 七点。

普請 十点。丹生相見家の屋根・建具・家屋の普請に関する資料である。た一四八六一の「水船」は飲用水をたたえて置く大きな箱また桶のことである（『広辞苑』）。た一三七・四三八は丹生相見家の屋敷内に祭られていた狩場明神の普請に関する資料である。

水汲・道通し請書 十一点。丹生相見家が所持する井の利用許可と、所有地への道通し許可に対する請書である。

争論 八点。丹生相見家所持の藪所と潮谷山にかかわる争論資料

である。た一二八四以下の四点は、相見所持の藪の伐採に関するものである。藪下の田地主が藪の陰になるので藪の伐採を願ひ出たが、相見は藪を伐採すると高所にある自宅の風当たりが強くなるので困る旨を申し出る。この件は伐採の方向で内済がはかられている。

高野山御用

安楽川荘奥家尼岡争論 五点。天野丹生相見、慈尊院中橋勘之丞、志富田金川清兵衛の三名が年預坊より命じられた、安楽川荘（現桃山町）公文奥家と庄中の争論嘯日記と、後年この争論についてのお尋ねに関する資料である。尼岡は奥家所有地であったが、上野村入会地としての利用慣行があり、数年にわたり争論が続いていた。嘯の結果、尼岡を庄中持ちとし、替え地として平尾の地を奥家に提供することになった。

上州清水寺 十点。現在の群馬県高崎市石原町にある真言宗豊山派清水寺に関する資料である。『群馬県史』史料編10近世2に翻刻された「嘉永二年正月 片岡郡石原村華藏山中興略記」を見ると、これら資料が高野山へもたらされた経緯を知ることができる。

清水寺は高崎市八幡町にある大聖寺（大聖護国寺）の末寺で、住職も大聖寺の兼帯であった。元禄七年（一六九四）に江戸護国寺僧正賢広の弟子賢隆が清水寺住職となり、別住となった。賢隆は享保二年（一七一七）七月までの二十四年間清水寺住職を勤め、弟子智海に後住を任す旨遺書を残し死去した。石原村の檀家中は智海後住の旨を願ひ出たが、大聖寺広阿は住職兼帯をいい、願書を取り上げなかったため、享保二年九月、智海は寺社奉行に願ひ出た。その結果、智海は修

行が未熟であり住職を申し付けがたいので、五年間修行し許状取得の上後住を申し付けること、修業期間中の費用は清水寺領から年十五両送ること、この間は大聖寺が住職を兼帯することで内済した。内済後、ほどなく智海は高野山へ登り修行を開始したようであるが、病氣となり、神谷村（現高野町西郷字神谷か）の親族が引き取り介抱することになった。しかしその甲斐なく客死したのである。

清水寺に関する資料は、修行のため訪れた智海によりもたらされたもので、おそらくは事後処理を行ったことにより丹生家に残されたと思われる。たー四五は高崎城主であった大河内（松平）輝貞の御供料寄進状で、たー四四・ふー四二は宝永七年（一七一〇）、輝貞の越後村上転封後も御供料の寄進と祈禱継続を確認した資料である。たー四四・四五は「華藏山中興略記」にその写しがのせられている。これらの寄進状と、たー四六二の賢隆の遺書は、智海が清水寺住持職の後継者であることを示す証文であり、肌身離さず所持していたのであろう。たー四〇〇・四〇一・四九五は、智海が高野山に向かうにあたってのものである。

たー一八九「社家諸事日記」に寛延二年（一七四九）四月二十五日に上州片岡郡石原村の山口兵四郎・高橋七郎次が立ち寄り、清水寺智海房所持の賢広僧正の譲り状を申し受けたい由、申し出たが、後で返事をするに伝え取り合わなかったと記されている。

巡見・登山 三点。幕府巡見等の対応に関する資料である。

敷庄屋 一点。文政五年から文政九年（一八二二～一八二六）まで丹生相見家は千蔵院敷庄屋を勤めている。

差紙 二点。

丹生家

年貢 二十点。皆済状、数年貢受取証と荒地地年貢納に関する一札。

大念仏講 四点。上天野に伝承されていた大念仏講に関する資料である。この大念仏講は講員の家を廻り宿として二月十五日と盆の十日日に涅槃図をかけて念仏を唱えていたという。

書状 二十一点。丹生相見家の家政に関して残されたと判断される書状を集めた。

近代資料 十八点。明治・大正・昭和期の辞令、各種証書等を集めた。

天野村 十一点。村にかかわる資料を集めた。季之の筆写によるものが多い。

その他 十二点。詳細、経緯不明の資料である。

写本・版本 十四点。たー二六六～二六八の「高野山説物語」は寛永十五年から元禄五年（一六三八～一六九二）までの学侶方と行人方の争論についての記録である。「統真言宗全書」第四十一巻に十巻本が翻刻されている。丹生家所蔵本は五巻本の写本である。たー三二二「六十騎組分姓名録」は、本目録に掲載した尾崎家文書おー一五七の写しである。

編年目録

丹生家文書は総点数六五五点（親番号による）に比べて、目録の項目数が多くなってしまった。そのため資料の全体像が分かりにくくなっている。そこでその欠を多少とも補うため編年目録を添付することにした。しかしページ数の制約から、全点を編年目録に掲載できない

め、資料総点数の大半を占める「た」記号の近世資料を中心とした。年月日不詳資料・宝簡集写し・写本・版本、また年号不詳で一月・二月に大半が集中することになる久留里藩黒田家関係資料は省略させていただいた。

この編年目録と解説に添付した丹生家系図を対照することにより、近世期における丹生家の動向がより明確になるとと思われる。

七 保存箱について

文書資料と同時に、旧来の保存箱二点も寄託された。

・長持 縦五六・二×横九〇・八×高七〇・八 (cm) (写真6)

もともとは資料全点がこの長持に収納されていた。移動のための駒が付いている。底に墨書がある。(写真7)

「旧記長持破損ニ付此度新造之者也 天保七丙申年二月 丹生相見 右京季之」

・被せ箱 縦三九・六×横一五・五×高一〇・三 (cm) (写真8)

「重宝の古文書」として特に重視されていた卷子七点がおさめられていた。この七点の卷子は、県文化財指定にともない現状のように成巻された。しかし「管家御真筆 一巻」は所在不明である。これは紺紙金泥の「妙法蓮華経普門品第二十五」で菅原道真が太宰府配流前に丹生都比売神社に奉納したものという。

上書「管家御真筆 一巻、御手印縁起 同、案文 同、延暦卷系図本 紙 同、同雲石堂自筆註 同、太政官符懷英筆 同、弘安十年之書 同」

・文箱 縦二九・〇×横二一・二×高一〇・四 (cm) (写真9)
「ふ」の記号を与えた書状がおさめられている。

八 関連物品資料について

県立博物館に丹生相見家伝来の四点の資料が寄託されている。丹生家文書理解の一助のために概略を記しておく。

①「狩場明神画像」一幅 (写真10)

本紙 縦九二・九×横四一・四 (cm)

弘法大師を高野山へ導いた狩人(狩場明神)の画像である。解説が『和歌山県の文化財』第二巻にある。昭和四十一年四月十二日、和

歌山県指定文化財に指定(行第一六七号)。

②「丹生四所明神画像」一幅(写真解説は卷子第十三巻参照)

本紙 縦一三〇・四×横五六・四 (cm)

ふた上書「天野明神異国降伏尊像并官符写 丹生相見家什物」

ふた裏「宝永六年己丑三月日 画師三宅後霊筆」

内箱底「奉寄附四社神影并異国霊験降伏瑞相官符写 施主修禅院僧

都懷英」

③笏(伝後三条天皇宸筆) 一握 (写真11)

最長九二・三 最大幅一〇・八 最小幅七・五 (cm)

た「四七「後三条帝勅願ノ還御神人之文」が墨書されている。「二之宮祝子ノ祝詞」も参照のこと。

表「諸請給ヒ詔申大御戸位ニ不物捧無鼻味事位驚給平ク安大御戸仕 詔申、請給ト詔申我君ノ宇豆廣前ニ奉レル清幣ヲ平安ニ請令開給 穴賢詔申」



写真10 狩場明神画像

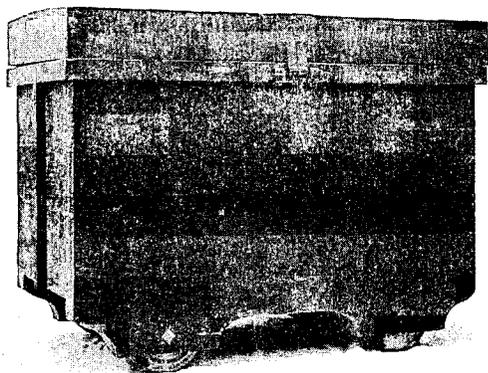


写真6 長持



写真7 長持墨書

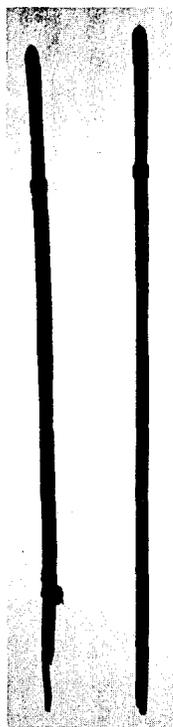


写真12 鉾



写真11 笏



写真8 被せ箱



写真9 文箱

裏「延久二年二月廿一日□□□了」

ふた上書「延久帝勅願之祝文 丹生相見」

ふた裏「奉寄進勅願祝言板函 幣串二対
元禄八乙亥年臘月日 修禪院快英 奉附之者也」

④ 鉾 (伝平城天皇奉納) 二旒 (写真12)

1 長さ一七〇・〇 鉾先三四・五 (cm)

2 長さ一七〇・三 鉾先三四・三 (cm)

九 その他の利用資料と参考文献

丹生輝代麿家文書 (高野山大学図書館寄託)

丹生都比売神社惣神主丹生一麿家に伝来した資料である。

慈尊院中橋家文書 (国文学研究資料館史料館所蔵)

慈尊院 (現伊都郡九度山町) 別当を勤めた中橋家に伝来した資料。

一時期惣神主丹生一麿家の後見を勤めたため、丹生都比売神社関係

資料が含まれている。

「丹生系図」(東京大学史料編纂所謄写本)

丹生都比売神社惣神主丹生一麿家の系図である。

松田壽男著『丹生の研究 一歴史地理学から見た日本の水銀一』(早

稲田大学出版部 昭和四十五年)

五来重編『高野山と真言密教の研究』(山岳宗教史研究叢書3) 名著

出版 昭和五十一年)

丹生廣良著『丹生神社と丹生氏の研究 一伊都国王の盛衰と丹生氏の

出自についての一考察一』(きのくに古代史研究会 昭和五十二年、

平成六年の第三版による)

海津一朗著『蒙古襲来 対外戦争の社会史』(歴史文化ライブラリー

32 吉川弘文館 一九九八年)

和歌山大学中世荘園調査会編『紀伊国天野郷現地調査報告』(和歌山

中世荘園調査会現地調査報告書① 一九九九年)

『久留里藩政一斑』(千葉県史料近世編 平成二年)

『式内社調査報告』第二十三卷 「丹生都比売神社」(丹生廣良氏執筆)

『和歌山県の文化財』(清文堂 昭和五十六年)

『かつらぎ町史』『高野春秋編年輯録』『紀伊統風土記』

岡田荘司「空海以前の丹生都比売神社」『高野山史研究』第二号 昭

和五十三年)

日野西眞定「高野山の神仏分離」『論集 日本人の生活と信仰』同朋

舎出版 一九七九年)

加地宏江「丹生古文書集について」『ヒストリア』第一〇二号 一九

八四年)

田中卓「丹生祝氏本系帳」の校訂と研究 一新撰姓氏録の撰進につ

いての一考察一』(『日本国家の成立と諸氏族』田中卓著作集2 国書

刊行会 昭和六十二年)

武内孝善「高野山の開創をめぐって一弘法大師と丹生津比売命一」

(岡田重精編著『日本宗教への視角』東方出版 一九九四年)。

丹生家文書には若干ではあるが活字化されている資料がある。これら

は備考欄に以下のように注記しておいた。

宝簡集 大日本古文書『高野山文書1』

興山寺 金剛峰寺編『高野山文書』所収、興山寺文書

大師全集 『定本弘法大使全集』第七卷

県史 『和歌山県史』中世史料二

町史 『かつらぎ町史』史料編

付記

目録編集にあたって、資料所蔵者の丹生廣良氏から多くの参考資料の提供を受け、聞き取り調査にご協力いただきました。また資料調査等で左の皆様のご高配に預かりました。記して感謝いたします。

奥延之氏（安楽川荘尼岡争論関係資料調査）

海津一朗氏（天野郷現地調査報告のデータ閲覧）

久留里城址資料館（千葉県君津市、久留里藩黒田家について）

高崎市史編さん室（群馬県、上州清水寺について）

高野山大学図書館（丹生輝代麿家文書調査）

かつらぎ町史編集室（町史収集資料調査）

和歌山県立博物館（丹生廣良氏寄託資料調査）

解題・目録 伊藤信明

丹生家

丹生家文書目録

卷子

第一卷 丹生祝氏本系帳

資料番号	標 題	年 月 日	作 成 者	宛 名	状 形 態
か-1-2	丹生祝氏籍記并序 *押紙「雲石堂自筆系図」序「天和癸亥八月十六日」	貞享元年8月16日	寂本		状
か-1-1	〔丹生祝氏本系帳〕 *押紙「延暦巻系図」町史	延暦19年9月16日			状

第二卷 承安四年解状并弘安十年補任状等

資料番号	標 題	年 月 日	作 成 者	宛 名	状 形 態
か-2-1	〔栗栖家文書写〕↓ 3点 以下詳細				状
か-2-1	①紀実俊解状 *裏書あり、後欠、県史	承安4年12月日			
か-2-1	②紀実俊解状 *裏書あり、前欠、県史	承安4年12月日			
か-2-1	③留守所符 *裏書あり、県史	建久3年12月1日			
か-2-2	公文所法橋信筆補任状 *押紙「弘安十年為実代官職」	弘安10年9月3日			状
か-2-3	預所左衛門尉橋宛行状	正応3年8月10日			状
か-2-4	雑訴決断所牒 *裏書あり	建武2年6月3日			状

第三卷 天野造替日記

か-3-5	か-3-4	か-3-4	か-3-3	か-3-2	か-3-1
〔遷宮諸入用米寛〕 *端裏「遷宮之節社人取米之事」	⑤〔寛永元年遷宮記〕	④天野大明神上せん宮下せん宮之次第	〔寛永元年遷宮記〕	天野御大明神就御下遷宮相輪事 寛写書也	天野宮造替日記 嘉元三年乙巳始之 *町史
慶長10年11月吉日 元禄3年写	寛永元年	慶長8年霜月1日	寛永元年	慶長6年9月16日	嘉元3年(10月15日) 4年6月15日)
天野上下年寄				天野諸社家衆中	
状	状	状	状	状	状

第四卷 天野庄知行定置状

か-4-6	か-4-5	か-4-4	か-4-3	か-4-2	か-4-1
売渡申候ちこく谷山事(せい二郎山地売券) *押紙「天正年中山之書物」 町史	売渡申候坊敷之事 *「写し」とあり	ウリわたシ申候タノサクノ事(又太郎作職売券) *町史	〔ハサマエモン五郎売券〕 *町史	天野地堂日記 地下 *町史	紀州いとの郡天野庄領内之事(四至定書)
天正6年12月27日	天正5年5月22日	天文21年2月21日	延徳3年16日	文明8年10月22日	保安4年3月16日
せい二郎(筆軸)	尺迦文院内長春	ウリテマタ太郎(略押)	ハサマエモン五郎(略押)	カンヌシセントノ比サ(花)(略押) アサリセウノハイシ(花)(略押) キヤウゼウハヤシ(花)(略押) スウチミ子大リサ(略押) スケ二郎大リサ(花)	小集会衆
天野如意輪寺之内教順房	かい主成福院	カイヌシセンフクキン	(ニヨイリシ二郎五郎)		天野庄□□
状	状	状	状	状	状

か-4-10	か-4-9	か-4-8	か-4-7
永代売渡申候勸阿弥かいと作之事(天野大庵室栄春作職売券) *町史	ウリワタシ申候カヤトウノ事(左衛門三郎カヤトウ売券) *町史	ウリワタシ申候カヤトウノ事(左衛門三郎カヤトウ売券) *町史	カリ申米之事(細原某借券) *町史
天正18年2月24日	天正15年12月7日	天正14年4月15日	天正8年正月10日
口入善左衛門 天野大庵室 売主栄春(花)	口入善左衛門 天野大庵室 シ□□サエモン(印) ウリヌ □□□コエモン	口入西方院 ケハラテラタ 左衛門三郎(筆軸)	アマ□ホソワラ□□□□
天野如意輪寺教順房	天野如意輪寺教順房	アマノニヨイリンシ教順房	アマノニヨ□□□チ教順房
状	状	状	状

第五卷 丹生神社恒例勸請神名帳

か-5
丹生神社恒例勸請神名帳
状

第六卷 丹生明神御位階記 附丹生大明神告門

か-6-1	か-6-1	か-6-1	か-6-1	か-6-1	か-6-1	か-6-1
⑥左大史小槻淳方書状	⑤天野社位記勘状案	④太政官牒	③小槻淳方書状添状礼紙書	②丹生明神位階勘状不審事書	①天野社位階注文	〔高野山文書写〕 ↓ 10点 以下詳細 *宝簡集18・19(除④)
(寛元4か)6月18日	(寛元4年6月か)	正応6年3月28日 *興山寺	(寛元4年6月か)	寛元4年7月日		
						状

か-8-1	〔八幡宮御供田寄附状〕	天和2年6月5日	学侶年預坊(印)	相見	状
か-7-6	〔裁許状遣わす旨書状〕	(元和9)閏8月25日	吉田内鈴鹿采女正 治忠 (花)	丹生相見大夫	折紙
か-7-5	〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕 *136(13)も同	(寛永元)11月18日	吉田兼英	知足院	折紙
か-7-4	〔相見裁許は新義ではない旨四社明神の社家以下へ仰せ聞かせる旨依頼状〕	(元和9)12月11日	吉田兼英(花)	高野山無量寿院 宝性院 碩字之御中 御同宿中	折紙
か-7-3	補任一僧祇事	寛永16年7月16日	法印演永(花)	内記(丹生広真)	状
か-7-2	神道裁許状	元和9年閏8月25日	神道管領長上下部朝臣兼英 (花)(印)	(丹生義継)	状
か-7-1	神道裁許状	慶長16年12月25日	神道管領長上下部朝臣(兼治) (花)(印)	(丹生義久)	状

第八卷 天和二年開発新田寄進状等

第七卷 神道管領吉田裁許状

か-6-2	丹生大明神告門 (音)	*町史			状
か-6-1	⑩丹生社神主恒信言上書	(元弘3年)			
か-6-1	⑨関東御教書	永仁2年4月20日			
か-6-1	⑧後醍醐天皇給旨	建武元年2月12日			
か-6-1	⑦左大史小槻淳方書状	(寛元4か)6月3日			

か-8-5	か-8-4	か-8-3	か-8-2
申指上一札之事(新開田引水につき)	[折芝大池之書物相見家に預ケ置く旨書付]	[封紙] *上書「天野八幡宮御供田寄附状」	下天野村古屋谷折芝両所新田之定
貞享2年2月19日	乙丑(貞享2)3月日		貞享4年12月5日
同村長右衛門(印)	宝光院 宝泉院		年預坊(印)【奥】取次宝泉院
法泉院 宝光院			作人又之丞
状	状	封紙	状

第九卷 慶長六年御立願状

か-9
御立願状之事
慶長6年6月朔日
三吉太郎左衛門尉元高(花) 同新兵衛尉広高(花)
高野山天野
状

第十卷 慶長十五年起請文

か-10-1	か-10-2
起請文之事(上天野と下天野喧嘩落着につき)	[山役水役出入り和談につき定]
慶長15年9月18日	慶長16年8月2日
下天野老若中 喜四郎 勝 右衛門 善左衛門 甚四郎 甚 郎 善四郎 甚四郎 甚	門 惣五郎 新左衛門 又衛
上天野老若中	天野庄中
状	状

第十一卷 丹生祝氏籍記 并丹生神主家代々継系図

か-11-1	か-11-2
丹生祝氏籍記	[丹生氏系図]
貞享元年8月16日	
寂本	
元	状

第十二卷 享保三年公儀江差上願書

か-12-1
Ⓢ乍恐以口上書申上候覚(相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状) *押紙「公儀江差上願書」
戊(享保3)9月
(印)丹生相見(印) 同主計
寺社御奉行所
状

か-12-2	か-12-1
奉願上口上(御社領米の内七石二斗永代私家影向殿に下し置かれたい旨願書) *押紙「日御膳御聞濟願書」端裏あり	●〔対決につき呼出状〕
嘉永元年11月25日	戊享保3)9月28日
天野宮丹生相見(印)	伊予 对馬 因幡 修理
年預代	
状	状

第十三卷 正応六年太政官符 及御手印縁起・官符案文

か-13-1	か-13-1	か-13-1	か-13-1	か-13-1	か-13-1	か-13-1	か-13-1	か-13-1	か-13-2	か-13-2	か-13-3
〔高野山文書写〕 ↓ 4点 以下詳細 *「天野四社大明神異国降伏之神影」に付属	①太政官牒 *興山寺	②後深草院々宣追而書 *宝簡集18	③沙弥道仏書状 *宝簡集18	③神主常家書状 *宝簡集18	〔太政官符并遺告〕*押紙「御手印縁起」絵図・国判を欠く、大師全集	〔御手印縁起〕 *押紙「案文」、大師全集					
宝永6年3月写	正応6年3月28日	正応5年8月4日	弘安7年閏4月22日	弘安7年閏4月23日							
〔前左学頭修禅院僧都快英写〕											
状											

第十四卷 天野社参記 附皮張大明神縁起

か-14-1	か-14-2
覚(検校法印天野社参再興につき)	皮張大明神之縁起并祭礼由来記 *丹生廣慶写、町史
寛文11年3月11日	正徳3年5月吉祥日
寺務法印正智院有専	高野山前左学頭修禅院僧都 懐英
状	状

第十五卷 嘉元三年信日記 附繪旨院宣寄進状

か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -1
⑪後村上天皇繪旨	⑩後醍醐天皇繪旨	⑨某下文(仁和寺宮庁下文)	⑧某奉書追而書	⑦東寺長者御教書	⑥法眼某遵行状	⑤足利直義御教書	④長慶天皇口宣案	③後花園天皇口宣案	②正親町天皇口宣案裏書	①正親町天皇口宣案	〔惣神主家文書写〕↓24点 以下詳細 *『ヒストリア』第一〇二号「丹生古文書集」参照(除①)④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺)	天野明神口伝抄 信日記 附奥書秘説 *貞享年中快英追記、享保3年12月相見へ授与
興国2年5月28日	建武元年2月12日	建仁3年8月日		弘和2年閏正月18日	8月4日	暦応元年10月14日	天授元年4月27日	正長元年11月2日	永祿7年8月4日	永祿7年8月4日		嘉元3年12月日
												(野山檢校兼天野社務懷英 写)
												元翌帳

丹生家 卷子(第十五卷)

か-15 -3	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	
惣神主家二有之候書物写(資料目録)	⑭ 検校明任・道範事書	⑬ 〔丹生秀澄詠歌〕 *注記「丹生秀澄五十一歳之時也」	⑫ 法印某奉御教書	⑪ 丹生友家言上状	⑩ 丹生友家讓状	⑨ 丹生則道讓状	⑧ 丹生則道讓状	⑦ 丹生則道讓状	⑥ 丹生經光申状	⑤ 某追而書	④ 定元副状	③ 法眼某奉御教書 *年号欠、古文書集にて補う	② 日前宮人母頼幸和与状	① 東寺長者御教書
	嘉禄3年11月15日	元和4年	建治3年11月27日	建曆2年	建治2年8月26日	建曆2年正月27日	建曆2年正月18日	正中2年6月14日			8月4日	後10月19日	文保2年6月日	元中2年9月21日
状														

第十六卷 丹生高野両大明神御位階記等

か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1
⑫左衛門少尉源俊清寄進状	⑪後醍醐天皇論旨	⑩関東御教書	⑨丹生社安居供料国司方請文	⑧丹生社安居供料国司方請文	⑦僧鏝阿書状	⑥僧鏝阿天野宮八講米寄進状	⑤小槻淳方書状添状礼紙書	④左大史小槻淳方書状	③左大史小槻淳方書状	②丹生明神位記勘文	①天野社位記勘状案	丹生高野両大明神御位階記 乾 ↓22点 以下詳細 *宝簡集18写(除⑬)
建武元年7月22日	建武元年2月12日	永仁2年4月20日	建治2年8月14日	建治2年3月5日	(建久元か)6月24日	和勝元年6月25日	(寛元4年6月か)	(寛元4か)6月3日	(寛元4か)6月16日	か (寛元4年6月16日	(寛元4年6月か)	貞享2年秋仲月写
												懐英
												元豎帳

丹生家 卷子(第十六卷)

か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1
③丹生社神主恒信言上状	②丹生明神位階勘定不審事書	①天野社位階注文	□御社位階并雜記 坤 ↓ 15点 以下詳細 *宝簡集18・19写	②紀伊国安楽河庄分田衆評定事書	②大伝法院頼齋高野山堅儀料田寄進状	②東寺長者御教書	①9後村上天皇綸旨	①8東寺長者御教書	①7後村上天皇綸旨	①6足利尊氏御教書	①5足利尊氏御教書	①4後深草院々宣迫而書	①3太政官牒 *興山寺
(元弘3年)	寛元4年7月日		貞享2年秋仲月	応永20年7月2日	応永13年3月21日	11月2日	6月21日	(興国2)5月28日	興国2年5月28日	建武3年6月21日	建武3年6月21日	正応5年8月4日	正応6年3月28日
			丹生相見										
			元堅帳										

か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	
⑮和泉国近木庄相折帳(応永三十二年々貢分)	⑭高野山大集会評定事書	⑬天野社神体渡御日時勘文	⑫高野山検校祐信言上書	⑪沙弥道仏書状	⑩神主常家書状	⑨東寺長者御教書	⑧和泉国悪党人交名注文	⑦高野山雜掌良海言上書案	⑥六波羅召文御教書案	⑤坂上清澄起請文	④天野社恒例八講学頭世事式条
応永32年	元亨2年7月5日	嘉元4年5月11日	弘安7年5月16日	弘安7年閏4月26日 (マツ)	弘安7年閏4月23日	正月28日	正安2年後7月	正安2年後7月	永仁6年9月3日	正応4年10月11日	建長5年3月日

丹生都比売神社

由緒

た-91	か-6 -2	た-28	た-435	か-15 -1
丹生明神告文	丹生大明神告文 ^(書)	四社明神縁起	天野一切経縁起	天野明神口伝抄 信日記 附奥書秘説 *貞享年中快英追記、享保3年12月相見へ授与
*下とじ部水損破れ	*町史		*小損	
		万延元年4月写	正徳2年5月10日書	嘉元3年12月日
丹生相見季之		高野山南紀高室院内 智定房写之 理心		写(野山檢校兼天野社務懐英)
堅帳	状	堅帳	卷子元堅帳	元堅帳

宝物

た-421	た-450
惣神主留守間御宝物内置注文 宮々御宝物社内二置注文	〔二宮一宮三宮四宮御宝物書上〕
	*前欠
	享保3年7月7日
状	状

年中行事

た-175 -1	た-176 -2	た-176 -1
年中行事	〔お備え料内訳覚〕	御供所年中行事
*挟込文書以下へ、小損	*挟込文書、中損	*中損
文政7年2月吉辰		文政4年正月日
丹生相見	相見	丹生相見季之
堅帳	状	堅帳

丹生家 丹生都比売神社(由緒/宝物/年中行事)

丹生家 丹生都比売神社（年中行事／祭祀・祈禱）

た-434	た-34	た-428	た-187 -2	た-187 -1	た-427	た-175 -8	た-175 -7	た-175 -6	た-175 -5	た-175 -4	た-175 -3	た-175 -2
明神講式	神祇講秘式 *奥書「延宝九辛酉曆一月上旬南西田木清春進之」 朱書入	〔年中行事〕 *大損	〔鬼祭次第〕 *挟込文書	〔年中行事〕 *表紙はたー155のもの、書入多数、大損	御神用年中行事 *中損	〔家数改覚〕	覚（日御膳料米神納）	〔米内わけ書上〕	〔祭礼入用割覚〕	〔初穂受納につき書状〕	覚（会式入用品調進頼状）	〔二月十七日祭礼御備覚〕
*中損												
宝曆4年8月如意日	延宝9年2月上旬				元治元年12月	天保14年	明治元年10月28日			2月18日	10月11日	
		丹生相見			輪番丹生相見 安養坊		丹生相見				辺院納所	
							興山寺様御蔵奉行					
卷子	卷子	竖帳	状	竖帳	竖帳	状	状	状	状	状	状	状

祭祀・祈禱

丹生家 丹生都比売神社(祭祀・祈禱／遷宮)

た-136	た-136	た-136	か-3-4	か-3-3	か-3-4	か-3-2	か-3-1
⑳ [遷宮につき書状]	㉑ [遷宮につき書状]	㉒ [遷宮、出入りについて公儀よりお尋ねにつき来春二十日頃下向の旨書状]	㉓ [寛永元年遷宮記]	[寛永元年遷宮記]	㉔天野大明神上せん宮下せん宮之次第	天野御大明神就御下遷宮相輪事 覚写書也	天野宮造替日記 嘉元三年乙巳始之 *町史
(万治3か)11月13日	(万治3か)11月13日	(万治元か) 閏12月23日	寛永元年	寛永元年	慶長8年霜月1日	慶長6年9月16日	嘉元3年(10月15日) 4年6月15日
無量寿院長栄	宝性院朝(朝遍か)	宝性院玄(玄宥か)				天野諸社家衆中	
惣神主	天野惣神主	天野神主					
			状	状	状	状	状

遷宮

た-448	か-5	た-446	た-457	た-430
[雅楽楽譜] *鶏徳、合歡塩	丹生神社恒例勸請神名帳	覚(祈禱依頼状)	籠中入用帳 *上綴じ紐に文書くくりつけるがはずせない、小損	雨乞其外何角留帳 *大損
		子3月朔日	文化2年2月・霜月	明和6年7月吉祥日
		正智院 後見(花)	社家中 丹生相見	松嶋氏
		神主 相見 三祝子 四祝子 奥庵御房 御湯大夫		
豎帳	状	折紙	豎帳	豎帳

丹生家 丹生都比売神社（遷宮／社領支配・配当）

た-271	た-458	た-272	た-105-2	た-105-1	た-105-1	た-136	た-136	た-472	た-432	た-36	た-431	た-467
天野宮領支配帳	〔祭礼供物等難相調につき米五石加助の旨達〕	丹生宮領支配帳	承応三年神田村之儀天野庄惣百姓へ申付候年預留	⑧承応三年神田村之儀天野庄惣百姓へ申付候年預留	⑨神主江学侶方より被差遣候地方書付写（神田村の百姓御返退あるべきにつき） *一紙に二点の文書を写す 町史	⑩〔太鼓料につき書状〕	⑪〔太鼓料につき書状〕	御遷宮代動	舞楽雜記	天野輪橋普請橋供養之事 日記	御宮移舞楽覚帳	御宮移殘記
*不開、大損	*中損	*大損	*奥に貼り継ぎ					*大損	*大損	*大損	*大損	*大損
元禄2年11月28日	元禄2年10月19日	元禄2年4月日写	承応3年12月9日	承応3年12月9日	元和6年12月6日	(慶長年中)正月20日	(慶長年中)正月19日	安政2年11月	天保10年9月	文政元年10月吉日	文化11年3月29日	寛文13年3月3日
丹生相見 □ _{ケツレ} □		丹生相見	衆議中年預坊	衆議中年預坊	年預坊賀納院実聖	善集院栄旻 宝亀院朝印 大衆院深覚 栄旻	遍照光院頼(頼慶か)	丹生相見右京重治	丹生相見右京季之	丹生相見李之	丹生要人	丹生相見広忠(花)
	天野惣神主并社家中		天野村百姓中	天野村百姓中	天野惣神主	天野惣神主	天野神主					
豎帳	状	豎帳	状	状	状			豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳

社領支配・配当

丹生家 丹生都比売神社（社領支配・配当／社領収納・下行）

た-281	た-278	た-277	た-287	た-286	た-285	た-242	た-170	た-456	た-280	た-275	た-273	た-274
御社領収納帳 中蔵下行帳 *不開ヶ所あり、大損	御社領収納帳 中蔵下行帳 *大損	八月分下行帳 長谷宮下行帳 *中損	配当米員数記撰	〔配当米高書上〕	〔配当米高書上〕	乍恐口上（天野社家供僧方請取米八合判勘違につき） *中損	奉願上口上（お渡し米有り米りの通りに下される旨願） *別紙「例年御渡し米覚」あり、中損	御神用渡方 *中損	勘録之砌渡方覚 御加増之扣帳 *不開ヶ所あり、大損	天野宮惣神主社家供僧鉢殿方印鑑 *行人方支配分、大損	行人方より天野宮へ被附置候八木大豆目録（請取雛形） *中損	天野宮領従行人方之帳 *不開ヶ所あり、大損
文化11年霜月13日	享和2年11月13日	天明6年11月13日				酉2月17日	弘化2年5月24日	天保12年正月吉日	文化9年2月28日	元禄5年10月10日	元禄3年10月27日	元禄3年5月24日
社家中	社家中 丹生相見	社家中 丹生相見				社家方使新之丞 供僧方使 郡七	天野二三四祝子惣代三之祝子	社家中	丹生要人	丹生相見広忠	天野宮社家 同拝殿方 同社僧六人	相見丹生広忠
						検校様御役人中	年預代				代 天野御代官 庫蔵院 行事	
縦帳	縦帳	縦帳	縦帳	状	状	状	状	縦帳	横半帳	縦帳	状	縦帳

社領収納・下行

丹生家 丹生都比売神社（社領収納・下行／社家）

た-307	た-282	中蔵下行帳	八月分下行 長谷宮下行 御社領収納 中蔵下行	*中損	文政5年霜月13日	社家中		堅帳
				*大損				堅帳

社家

た-367	た-366	た-437	た-389	た-311	た-444	た-171	た-384	た-191	た-121	た-139
明神講加入御請印差上帳	明神講加入御請印差上帳	御供所賄方輪番定書	御借用仕金子之事	免許中掟書写	免許中掟書	〔昨年の登山の雑用割り方につき覚書〕	〔天野村社家組拾四人之者兩分之追立夫赦免状〕	〔御公儀并高野被仰渡書〕 *享保3・4・7年争論裁許、元和6年承応3年神田村書付、大損	御公儀并高野被仰渡書 下 他見無用 *享保3・4・7年争論裁許、元和6年承応3年神田村書付、大損	〔職人甚七郎一代社人芳免につき書状〕 *端裏「うつし」 136(19)も同、大損
文久3年2月日	文久3年2月日	安政3年11月吉日	天保3年11月日	文政13年霜月 慶応3年写	文政13年霜月14日	〔文政11年5月6日〕 10日	寛永12年極月8日	〔元和6年12月6日〕 〔享保7年2月25日〕	〔元和6年12月6日〕 〔享保7年2月25日〕	慶長15年9月16日
祝子方御湯太夫	供僧方	丹生相見重治写之	借主周之丞（印） 請人三之祝子（印）		幣之坊 祝子 丹生相見 三ノ祝子 奥ノ庵 柳之坊 四ノ祝子 之坊 玉本坊 御湯太夫 本坊 沢祝		集議中（印）	〔寺社奉行・衆議中〕	〔寺社奉行・衆議中〕	宝性院政遍
明神講御懸中	明神講御懸中		御湯太夫三社ノ祝子□ノ御惣代四之祝子				〔相見・神主・学侶・社家中など〕	〔相見・神主・学侶・社家中など〕	神主	
綴り	綴り	堅帳	状	堅帳	堅帳	状2枚	巻	堅帳	堅帳	状

丹生家 丹生都比売神社（社家／日記）

た-168	た-173	た-211	た-189	た-214	た-185	た-155 -2	た-155 -1
諸事記	社領受取彼是留 社家帯刀之事 御巡檢之事 御年預御地方廻 文写 天野輪橋之留記 舞楽之事 御遷宮之事 *表紙は、中損	社家諸事日記 *中損	〔社家諸事日記〕 *前欠、大損	〔社家諸事日記〕 *前後欠、中損	〔社家諸事日記〕 *た-155の抄本	覚〔神子入供料物争論につき評議留書遺状〕 *袋綴内へ挟込、中損	社家諸事日記 *た-187の表紙がつく、内容は享保2から、中損
極月	文政4年～文政8年	安永5年正月吉日 〔寛政7年5月〕	〔延享5年3月3日〕 〔宝曆5年10月24日〕	〔元文2年11月8日〕 〔寛保3年4月9日〕	〔享保3年～享保10年〕	享保13年2月25日	享保4年正月吉日 〔元文6年2月〕
	〔丹生相見右京季之〕	丹生相見式部茂勝扣書				集議中	丹生相見王計広義
堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	状	堅帳

日記

た-133	た-246	た-383	ふ-57	た-169
申渡（登山の日割り渡しにつき）	〔公事赦免について兎角言わざるよう庄中へお申し有るべき旨書状〕	〔四社神主六人供僧の夫役免除につき達〕 *日付違うも同内容	〔四社神主六人供僧の夫役免除につき達〕 *小損	日待当屋廻帳 *小損
	後11月14日	7月27日	7月21日	慶応3年
〔祝子惣代・社家惣代・宮仕惣代〕	大庵室	学侶 年預坊 天野庄屋	学侶 年預坊 天野庄屋	免許中
状	折紙	巻子折紙	折紙	堅帳

丹生家 丹生都比売神社（日記／争論）

争論

た-180	た-181	た-199	た-182	た-241	た-193	た-194	た-194	た-186	た-152	か-3-2	た-253	た-207
乍恐奉願口上覚（社職入相済候様願）	乍恐証拠書之覚（惣神主新儀書上）	乍恐口上覚（惣神主方より新たに神人の代を拵えた旨）	乍恐口上覚（親死去の節の届けについて神主新法申出の旨）	奉願口上（御膳洗・大床掃除・社職入につき訴状）	申渡覚（社職入り被料減少の一札差出につき）	㊦〔惣神主請書丹生相見へ渡置旨〕	㊦指上申一札之事（惣神主学侶方支配ほか争論裁許請書）	差上申一札事（惣神主学侶方支配ほか争論裁許請書）	〔天野庄中と八幡宮遷宮夫役争論につき起請文〕	天野御大明神就御下遷宮相輪事 覚写書也	諸事留記	意得日記 他見無用
*中損	*大損		*大損	*大損	*大損	*小損	*小損	*大損	*町史、小損		*後欠、中損	*大損
享保19年11月25日	享保19年5月25日	享保18年11月25日	享保18年10月25日	子（享保17か） 10月24日	享保7年2月		享保4年正月27日	享保4年正月27日	元禄16年2月15日	慶長6年9月16日	（天保14年～安政4年）	文政9年
善次郎 雲八 宇兵衛	社家十七人（印）	御太刀之職善次郎 御矢籠 之職宇兵衛	社家十七人惣代	丹生宮惣神主丹生治部大輔	集議中	前檢校法印大和尚位修禅院 快英（花）	高野天野惣神主丹生将監	高野学侶方惣代南院 同 番宝亀院 多聞院	丹生相見 三之祝子 四祝 御湯太夫（全印）	天野諸社家衆中	丹生相見重治	丹生相見季之
年預代	年預代	年預代	年預代	年預代	（惣神主社家）		寺社御奉行所	寺社御奉行所				
状	状	状	状	状	卷子	卷子	卷子	状	状	状	横帳	竖帳

た-237	た-222	た-151	た-111	た-135	た-232	た-192	た-239	た-224	た-177	た-243	た-179	た-255
覚（御衆中読経の節行人方同音読経の有無お尋ねにつき返答書） *大損	〔御衆中読経の節行人方同音読経の有無お尋ねにつき返答書〕 *大損	〔衆徒行人袈裟の出入りにつき覚書〕 *小損	免許中与在所与出入之留帳 *後欠、町史	天野社家供僧中江申渡定書（請書） *表紙「丹生相見広元」、大損	〔社職入りにつき神主新法の申し出の通り請け合い仰せ付けにつき紛れ無きよう書付頂戴の旨願書〕 *大損	御膳洗彼是二付元文貳年御裁許状下ル写 *小損	乍恐口上覚（神人の代を惣神主新法に追戻した旨） *中損	乍恐口上覚（神人の代を惣神主新法に追戻した旨） *小損	乍恐口上覚（神人の代を惣神主新法に追戻した旨） *中損	乍恐口上覚（配分筋社職入まで預り願） *中損	申上覚（争論につき起請文） *中損	〔惣神主と社家中相論訴状〕 *前後欠、大損
（寛文3以前か） 8月17日	（寛文3以前か） 8月17日	正保2年11月6日 元禄元年11月16日写	明和2年2月吉日	寛延2年正月		元文2年2月5日	（元文元年9月5日）	（元文元年9月5日）	元文元年9月5日	卯（享保20か） 11月25日	享保20年11月5日	（享保19年か）
（天野宮社家中）	天野宮社家中	丹生相見式部広忠		惣神主附手長佐七郎惣神主後見四祝子天野宮惣神主丹生右近	社家	年預坊	（社家伝十郎）	（社家伝十郎）	天野社家伝十郎（印）	關職惣代宇兵衛	丹生相見 外16名	（社家）
（年預代）	年預代			年預代		惣神主 社家中	（年預代）	（年預代）	年預代	年預代	年預代	
状	状	状	竖帳	竖帳	状	卷子	状	状	状	状	状	竖帳

高野山

丹生家 丹生都比売神社（争論／高野山）

た-120	た-484	た-102	た-494	た-164	た-451	た-220	た-426	た-433	た-251	た-153	し-5	か-14 -1
太閤秀吉公御朱印 *正保2年寺領配分お尋ねにつき返答書あり、中損	弘法大師御衣切 *赤の布地入り	経文筆勢写 *双鉤填墨 「遺告真然大徳等」「詠十喻詩」いろは、数字、大損	野山五役割附控へ *執政 副執政 参政 顧問 監司、小損	旧三派改革書 *中損	〔氣比大明神の積・惣神主子伊織公儀継目御目見につき役人衆とのやり取り覚書〕 *小損	〔衆議書上〕 *た1436にかかわるか、大損	天野正月十四日晚施山王堂ニ修正会之砌幣之坊火傷日記 *大損	〔神鏡ほり出しにつき寸法等覚〕 *丹生広忠書、小損	覚（元禄高野聖断成行覚書） *中損	〔行人方の同音読経により御幸の停止した経緯覚書〕 *小損	立願状（上下和睦悪臣遠離武運長久如意満足祈） 元禄元年11月吉日	覚（検校法印天野社参再興につき） 寛文11年3月11日
天正19年10月21日 天正20年8月4日			（明治）	（明治2年か）			文化15年正月14日	（元禄8年8月14日出土）	（元禄5年）	留 元禄2年2月1日書	施主 本多飛騨守重益代判 家臣 武藤六郎兵衛尉正申 （花）	寺務法印正智院有専
（豊臣秀吉）							丹生相見右京季之写之	学侶方奉行最善 行人方同福蔵院		丹生相見広忠		
中 高野山惣寺中／金剛峰寺惣											高野山衆徒中	
縦 帳	包紙包み	巻	子	横 帳	縦 帳	状	状	縦 帳	状	状	状	状

旧記写

た-136	た-136	た-136	か-15-3	か-15-2	か-6-1	た-439	た-429	か-13-1	た-156	か-16-2	か-16-1	た-154	た-119
②〔新儀の興行を改めるべき旨書状〕	①〔御朱印写〕	旧記写 他見無用 ↓以下詳細 *中損	惣神主家二有之候書物写(資料目録)	〔惣神主家文書写〕 ↓「卷子」を見よ	〔高野山文書写〕 ↓「卷子」を見よ	丹生社々格上頼件二付宝簡集抜書目録 *小損	諸堂社法事證 壇上奥院山下 *内題「於諸堂社学侶方仏事神事相動候証文」大損	〔高野山文書写〕 ↓「卷子」を見よ *「天野四社大明神異国降伏之神影」に付属	〔高野山衆徒寺中法度定書写〕 *幕府よりの条目の写し、六点あり、大損	〔御社位階并雜記 坤 ↓「卷子」を見よ〕	丹生高野両大明神御位階記 乾 ↓「卷子」を見よ	高野山衆徒行人御条目写 是ハ学侶方ニ而写之候 他見無用 *大損	高野山寺領寄附状写
元和元年8月12日	元和元年7月日					明治15年9月21日	寛延2年2月写	宝永6年3月写	貞享4年10月18日	貞享2年秋仲月	貞享2年秋仲月写	(寛文3年)元禄8年	慶長6年5月21日
衆議衆中年預	(徳川家康)	丹生相見						(前左学頭修禅院僧都快英写)	(徳川綱吉)	丹生相見	懐英		(徳川家康)
惣神主一磨									金剛峰寺衆徒中・高野山衆徒中ほか				金剛峯寺衆徒中
		竖帳	状	元竖帳	状	横半帳	写本竖帳	状	状	元竖帳	元竖帳	竖帳	卷子

丹生家 丹生都比売神社(旧記写)

た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136
⑬ 紀州天野丹生明神惣神主就訴訟相見内記召寄申渡覚	⑭ 〔吉田兼英書状の旨を伝える書状〕	⑮ 紀州天野丹生明神惣神主と相見と就訴訟申渡覚	⑯ 〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕	⑰ 〔相見新儀を改めるべき由の仰せ付けを衆議一同に申し入れる旨書状〕	⑱ 〔社家中諸事法度古法のごとくの仰せ付けは尤もである旨書状〕	⑲ 〔碩学中申渡に異義なき旨書状〕	⑳ 〔相見は装束社役等三四宮祝子のごとく申付の旨書状〕	㉑ 〔相見は諸事社役等三・四宮祝子のごとき旨書状〕	㉒ 〔誓紙遣わす旨書状〕	㉓ 天罰起請文之事	㉔ 〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	㉕ 〔御朱印仰せ付けの様子を伝える書状〕	㉖ 〔御朱印写遣わし状〕
寛文元年 8月9日	（寛永元）霜月24日	万治2年 6月18日	（寛永元）11月17日	寛永元年 5月16日	寛永元年 9月16日	寛永元年 4月28日	寛永元年 4月28日	（寛永元）4月28日	（元和元）8月21日	元和元年 8月20日	（元和元）8月20日	（元和元）8月13日	（元和元）8月12日
井河内 板阿波	知足院	井河内 板阿波	吉田兼（兼英）	年預坊	無量寿院覚雄	宝性院宥（宥盛）	正智院心暹 西南院正旻 御庵室光祐 算	正智院心暹 西南院正旻 御庵室光祐 算	大楽院	天野二宮祝子相見	学侶年預	大楽院	年預花蔵院
	天野惣神主		知足院	天野神主一磨	天野神主一磨	天野神主一丸	天野社家供僧惣中	天野神主一磨	惣神主一丸	学侶御衆議中	天野惣神主一丸	惣神主一丸	天野惣神主一丸

た-449	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136
〔天野社位記勘状案写〕	⑲〔遷宮、出入りについて公儀よりお尋ねにつき来春二十日頃下向の旨書状〕	⑳〔遷宮につき書状〕	㉑〔遷宮につき書状〕	⑳〔職人甚七郎一代社人芳免につき書状〕	⑳〔太鼓料につき書状〕	㉑〔太鼓料につき書状〕
状						

一之宮祝子

祭祀

た-422	た-252	た-184	た-263
御鬼祭之次第寛	補忘記（祭神・社家・社堂間敷・給米等寛）	丹生相見家伝授事（祝詞・木祭次第・相見宮入次第ほか）	雜記（祭文・祭礼入用物寛）
状	横半帳	縦帳	横半帳

丹生家 丹生都比売神社（旧記写） 一之宮祝子（祭祀）

丹生家 一之宮祝子（祈禱／惣神主代勤）

祈禱

た-332	た-346	し-6	た-129	た-66	し-1	た-84	た-54	た-53	た-51
口演（御膳料納まり候かお尋）	〔祈禱依頼状〕	〔教光院参府につき祈禱依頼状〕	〔教光院参府につき祈禱依頼状〕	〔祈禱料下渡状〕	〔祈禱料下渡状〕	〔学侶衆中立願書写〕	衆中立願書	敬白学侶衆中立願書	〔学侶衆中立願書〕 *学侶行人争論にさいし学侶の勝利を願う、大損
*小損	*中損		*大損	*大損		*小損	*中損	*大損	
極月5日	11月2日	6月7日	6月7日	元禄10年10月日	元禄10年10月日	(元禄元年12月吉日)	元禄元年12月吉日	元禄元年12月吉日	元禄元年12月吉日
源左衛門	多聞院	衆議中（印）	集議中	学侶年預坊	学侶年預坊（印）		学侶	学侶	
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見				
状	状	状	状	状	状	状	状・封紙	状	状

惣神主代勤

た-240	た-205
乍恐奉願上口上覚（三之宮祝子へ仰せつけた惣神主神役を相見へ仰せ付けの旨）	一之宮二之宮相勤并祝子記 *惣神主嘉治丸社職入りまで、後欠か、大損
*大損	
丑（文化2か）8月	享和2年4月12日 （文化10年2月4日）
天野二之祝子丹生相見（印） 一家惣代狭間官太夫	丹生相見広保
年預代	
状	横半帳

丹生家 二之宮祝子（惣神主代勤／祝詞）

た-82	た-90	た-88	た-86	た-83	た-81	た-59 -2	た-87	た-47
祭詞（丹生家子孫繁栄守護）	他家ヨリ頼コシ祈念乃祝詞 許々呂ひかゑ *明神講祝詞・祈五穀豊穰・祈家内安全・祈癒病祝詞・祈平産など	〔祓詞〕	〔五穀豊穰、国家安寧祈願祝詞〕 *小損	〔朝廷守護・天下太平祈願祝詞〕	大祓詞 *小損	〔祝詞〕 *大損	御宝前祝言板書付（延久二年後三条天皇祭文）	後三条院帝勅願ノ還御神入之文
（昭和）							（延久2年2月16日）	延久2年2月16日
（丹生廣良）	丹穂廼屋		（丹生相見広義）		丹生相見季之謹書			
状	堅 帳	状	状	状	堅 帳	状	状	状

祝詞

た-472	た-157	た-206
御遷宮代勤	惣神主代勤記	惣神主神職御取上相見江代勤被仰付
*大損	*大損	*大損
安政2年11月	天保5年（天保8年）	文政8年8月
丹生相見右京重治	丹生相見季之	丹生相見右京
堅 帳	堅 帳	堅 帳

丹生家 二之宮祝子(講/檀那)

講

た-219	た-172	た-445	た-371	た-370	た-363-4	た-363-3	た-363-2	た-363-1	た-358	た-359
〔東家村宿よりの家並覧〕	東家学文路村大谷村友渕三ヶ村古佐布村檀中帳 *町史	月参連名帳 *内題「天野明神月参講序」、序のみ、大損	御被講人別記 *中損	〔御被講人別記下書〕 *崩れ三枚、中損	序(月参講中加入案内) *中損	御被講序 *中損	案(万人講) *中損	序(月参講中加入案内) *四点一綴、中損	天野講御人数帳 *大損	天野丹生大神参宮講人数帳 *裏表紙「宿坊丹生相見」小損
	文久2年改				(文政12年)	文政12年		文政12年	享保17年4月2日	享保14年8月12日
	丹生相見	天野宮丹生相見	(花)天野二之宮神主丹生相見季		天野二宮祝子丹生相見	天野二宮祝子丹生相見		天野宮丹生相見	定光院納所宿丹生相見	講親喜多長左衛門
折紙	横帳	竖帳	竖帳	竖帳	綴り	状	状	綴り	竖帳	竖帳

檀那

補任・社役入

た-227	た-210	た-248	た-174	た-204	た-212	か-7-3
乍恐奉言上（先格の通り相替わらざるよう仰せ付け願） *210にかかわるか	乍恐奉懇願候（権神主職相統仰せ付け願） *大損	〔民部宮入につき親子出勤は成らざる旨申渡状〕 *大損	丹生相見右京季之社役入留記 宮引菊谷栄助 上之坊遙見 *中損	社役入献立 *表見返「松島内膳十四歳時入」大損	丹生相見社職入萬覚帳 *中損	補任一僧祇事
（明治3年か）	（明治3年か）	寅（嘉永7）7月25日 （年預か）	文化14年2月吉辰	享和2年7月2日	寛延2年	寛永16年7月16日
二之宮神職丹生相見	丹生相見 倅同友之助				丹生広元	法印演永（花） 法印成典
状	綴り	状	堅帳	堅帳	堅帳	状 内記（丹生広真）

配当米

た-279	た-208
二之宮神職入米日記 *中損	二之宮神職小日記 *享和2年の諸事留書あり、大損
文化8年正月吉令日	（寛政9年）享和2年
丹生広保	丹生相見義督
堅帳	堅帳

日御供料

た-256	か-12-2
奉願口上寛（年中日御供料現米七石二斗永代御下げ願） *小損	奉願口上（御社領米の内七石二斗永代私家影向殿に下し置か れたい旨願書） *押紙「日御膳御聞濟願書」端裏あり
天野宮丹	天野宮丹生相見（印）
年預代	
綴り	状

丹生家 二之宮祝子（補任・社役入／配当米／日御供料）

丹生家 二之宮祝子（日御供料）

た-244	た-436	し-7	た-377	た-101	た-100	た-78	た-77	た-76	し-2	た-391	た-392	た-134	た-424
〔御膳料現米七石二斗寄附願〕	永代日御供発趣記 *た1220がかかわるか、大損	寄附状（永代日御膳并祈禱料として現米七石二斗）	寄附状（永代日御膳并祈禱料として現米七石二斗） *中損	大明神社日御供願文 *包紙入り文書を包紙・本紙の順に軸に巻きつけ、小損	大明神社日御供願文 *錦の表紙、返り点等あり	願文（堂塔再営につき） 中損	願文（堂塔再営につき）	願文（堂塔再営につき） *天保14年焼失の堂塔再建に関して、小損	預り申永祠堂金之事	御拝借奉申上金子之事 *中損	御借用申上候金子之事 *小損	申渡（日御供料受取書の代官所へ差出につき） *大損	日御供料之事（日御供料替わりとして新田開発につき金百両冥加として差し出す旨） *大損
（嘉永2年以降）	嘉永2年極月	嘉永2年正月	嘉永2年正月	嘉永2年正月	（嘉永2年正月）	嘉永2年正月	嘉永2年正月	嘉永2年正月	嘉永元年12月	嘉永元年極月18日	嘉永元年極月17日	嘉永元年11月25日	嘉永元年11月25日
	丹生相見右京季之	衆議中（印）	集議中	金剛峯寺衆徒中（印）	（学侶大衆）	衆議中	衆議中	衆議中	院 年預坊 金剛三昧院 多聞	御借用主天野丹生相見（印） 人龍性院（印消） 御借用主丹生相見（印） 消）受人四之祝子（印消）	院 惣持院 宝性院 湛然 定光院 悉地	院 惣持院 宝性院 湛然 定光院 悉地	院 惣持院 宝性院 湛然 定光院 悉地
		丹生相見	丹生相見						丹生相見	年預坊	心南院	天野宮丹生相見	
状	縦帳	状	状	卷子	卷子	状	状	状	状	状・封紙	状	状	状

高室院御恩金

た-420	た-419	た-395	た-394	た-394
手切證文之事	本銀返田地譲り證文之事	御恩金頂戴之事	●〔表書の金子讓渡につき書付〕	●奉拝借證文之事（金五十兩）
明治3年12月19日	明治2年極月	明治2年12月	明治2年正月	慶応3年11月朔日
仲次郎 <small>（全印）</small>	譲り主 <small>（印）</small> 笠木村政五郎 <small>（印）</small> 親類	丹生民部 <small>（印）</small> 同左源太	寿門主兼高室院現定 <small>（花）</small>	借用主丹生相見 <small>（印）</small> 證人杉本兵馬 <small>（印消）</small>
御取次丹生相見	相見	高室院様御取次衆中	天野二宮相見家	御門主様御取次中
状	状・封紙	状	状	状・封紙

神道説

吉田神道

か-7-6	か-7-2	か-7-1
〔裁許状遣わす旨書状〕	神道裁許状	神道裁許状
（元和9）閏8月25日	元和9年閏8月25日	慶長16年12月25日
吉田内鈴鹿采女正 <small>（花）</small> 治忠	神道管領長上 <small>（花）</small> 神道管領長上 <small>（印）</small> 下部朝臣兼英	神道管領長上 <small>（花）</small> 治 <small>（花）</small> 下部朝臣 <small>（印）</small> （兼
丹生相見太夫	（丹生義繼）	（丹生義久）
折紙	状	状

三輪神道・御流神道

た-460	た-447
〔一括封紙〕	三輪流 一神道諸大事十ヶ□□
*上書「御流神道日月庚申待大事 丹生広義」	*表紙すれ
	元和4年3月7日授 寛永17年10月吉日授
封紙	横半帳

丹生家 一之宮祝子（高室院御恩金）／神道説―吉田神道、二輪神道・御流神道

丹生家 二之宮祝子（神道説―三輪神道・御流神道）

た-425	た-99	た-98	た-97	た-96	た-95	た-94	た-93	た-92	た-29	た-74	た-460-3	た-460-2	た-460-1
御流 幣足切様 幣加持大事 注連加持大事	御即位 *端裏「御即位 二丁八」、大損	神祇大事 *端裏「神祇大事 二丁七」、大損	太神宮秘所大事 *端裏「太神宮秘所大事 二丁六」、大損	普門品大事 *端裏「普門品大事 二重 五」、大損	祝詞 *端裏「祝詞 俗二丁四」、大損	子良大事 *端裏「子良大事 二丁三」、大損	麗氣汀印信 *端裏「麗氣汀印信 二丁二」、大損	岩戸開大事 *端裏「岩戸開大事 二重 一」、大損	御流神道 *中損	神拜之許札	御流申首日待大事 *小損	御流申首月待大事 *小損	庚申待大事 *小損
									安政3年9月写	天保10年2月	享保20年12月16日	享保20年12月16日	享保20年12月16日
丹生民部富道									丹生民部富道	阿闍梨鏤善（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）
										季之	丹生広義	丹生広義	丹生広義
状・封紙	状	状	状	状	状	状	状	状	写本 整帳	状・封紙	状	状	状

丹生家 二之宮祝子(神道説)三輪神道・御流神道、一伊勢神道)

た-11	た-10	た-9	た-8	た-7	た-6	た-5	た-4	た-3	た-2	た-1
日本後記纂	太神宮心御柱記	神皇系図	日本書紀神代卷神名鎮座	神宮秘伝問答 *奥書「度会延佳(印)」、朱書入	神宮統秘伝問答 *奥書「度会延佳(印)」、朱書入	御鎮座次第記	御鎮座伝記 *墨書あり	豊受大神宮御鎮座本紀 *朱書入	宝基本記 *朱書入	御鎮座本縁 *朱書入
写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴

伊勢神道

た-423	た-30
御幣大事	授神道先例控 *神道十ヶ大事を授けた記録、内容は天保9年~明治2年まで
	嘉永7年
	丹生相見重治
状	堅帳

丹生家 二之宮祝子(神道説―伊勢神道)

た-25	た-24	た-23	た-22	た-21	た-20	た-19	た-18	た-17	た-16	た-15	た-14	た-13	た-12
神道大意 渡会延佳 *奥書「度会延佳(印)」、朱書入	古老口実伝 *朱書入、中損	皇太神宮年中行事記 *小損	行幸記 *永享9年10月21日の記事、中損	天神七代略抄 *正徳5年9月上旬丹生広義書、中損	神敵吉田兼俱謀計記 *奥書「度会延佳(印)」、朱書入	〔詔刀師沙汰文〕 *中損	御遷宮沙汰文 *内題「文永三年御遷宮沙汰文」	大和本記 *「国名風土記」添付	神令 *朱書入、小損	伊勢神領内名所目録(神風小名寄) *小損	諸神記 *小損	天照太神宮參宮神拝次第記 *中損	類聚神祇本源 *天宮篇の一部、中損
写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴

丹生家 二之宮祝子（神道説―伊勢神道、―その他／他社奉仕―下天野八幡宮）

た-106	か-8-1	た-442	か-3-5	た-463
〔八幡宮御供田寄附状〕	〔八幡宮御供田寄附状〕	定八幡宮さん <small>（ママ）</small> ぎ事 *お供え料灯明料の払いの定、中損	〔遷宮諸入用米覚〕 *端裏「遷宮之節社人取米之事」	八幡宮上遷宮下遷宮祝儀引付覚 *か-3-5とかかわるか、大損 （慶長10年）
天和2年6月5日	天和2年6月5日	慶安3年12月吉日	慶長10年11月吉日 元禄3年写	
学侶年預坊	学侶年預坊（印）	天野上下庄中（印）	天野上下年寄	
相見	相見	八幡宮神主		
状	状	状	状	状

他社奉仕

下天野八幡宮

た-455	た-454	た-453	た-452
〔神道説抜書〕	幣等切形 *包紙上書「幣等切形 五品入 丹生相見」	祝詞幣 *包紙上書「祝詞幣 社之大小ニテ見合 丹生相見」	神衣形図 附笏図 幣袋寸法 木綿纏寸法 小幣形 申幣形
	丹生相見	丹生相見	丹生相見
状	包紙包み	包紙包み	包紙包み

その他

た-27	た-26
倭姫命世記 *度会延佳識語あり、朱書入	伊勢二所皇御鎮座記 *朱書入、中損
写本和綴	写本和綴

丹生家 二之宮祝子（他社奉仕―下天野八幡宮）

た-221	た-247	た-236	た-40	た-38	た-57	た-56	た-41	た-55	か-8-3	か-8-2	か-8-4	か-8-5
口上（八幡宮遷宮について庄中の意趣を承りたい旨） *小損	預り申畑之事（字折芝） *絵図あり	〔八幡宮御造宮覚〕 *た140を見よ、小損	八幡宮御造宮覚 *た1236へ続く、小損	八幡宮御造宮覚 *中損	妙見大菩薩遷宮祭文 *八幡宮境内社、中損	八幡三所大菩薩遷宮祭文 *中損	〔八幡宮上葺きの高除キ十一人の手伝いにつき覚〕	八幡宮下遷宮祭文 *小損	〔封紙〕 ※上書「天野八幡宮御供田寄附状」	下天野村古屋谷折芝両所新田之定	〔折芝大池之書物相見家に預け置く旨書付〕	申指上一札之事（新聞田引水につき）
	文政7年正月28日		享保8年	享保8年7月23日	元禄14年5月28日	元禄14年5月28日	（元禄14年5月朔日）	元禄14年3月10日		貞享4年12月5日	乙丑（貞享2）3月日	貞享2年2月19日
	尾鼻村預り主嘉蔵（印） 細原村請人嘉十郎（印）			丹生相見	丹生相見広忠	丹生相見広忠		丹生相見		泉院 年預坊（印）〔奥〕取次宝	宝光院 宝泉院	星山村庄屋甚左衛門（印） 同村長右衛門（印）
	丹生相見									作人又之丞		法泉院 宝光院
状	状・封紙	状	状	縦帳	状	状・封紙	状	状	封紙	状	状	状

上天野岡村天満宮

た-473	た-79 -2	た-79 -1	た-79	た-471	た-73 -2	た-73 -1	た-73	た-469	た-70	た-69	た-39	た-59 -1
天満宮上下遷宮	天満宮御下遷宮祭祝文次第	天満宮御上遷宮祭祝文次第	〔一括封紙〕	天満宮上下御遷宮記	天満宮御上遷宮祭祝文次第	天満宮御遷宮祭祝文	〔一括封紙〕	天満宮御遷宮（遷宮記）	天満宮御上遷宮祭祝文次第	天満宮御遷宮祭祝文	預り申天満宮造営銀之事	天神上遷宮祭文
*不開	*大損	*不開	*上書「天満宮御遷宮祭祝文」	*不開			*上書「天満宮御遷宮祭祝文」	*宝暦6・安永6・文化8の年号あり、中損	*中損	*中損	*中損	*封紙上書「遷宮祭文 丹生相見欽白」小損
安政4年9月18日	安政4年8月24日	(安政4年9月19日)		天保6年9月日	天保6年9月	天保6年9月		(文化8年)	元文2年閏11月8日	元文2年11月20日	享保19年正月25日	宝永元年8月9日 ^乙
丹生相見右京重治	丹生相見季之	(丹生相見季之)		丹生相見右京季之	丹生相見季之	丹生相見季之			丹生相見広義	丹生相見広義	半兵衛(印)	丹生相見
											岡村御衆中	
堅帳	状	状	封紙	堅帳	状	状	封紙	綴り	状	状	状	状・封紙

丹生家 二之宮祝子(他社奉仕)上天野岡村天満宮

丹生家 二之宮祝子（他社奉仕）下天野子聖権現、一教良寺大明神、一古佐布大明神

下天野子聖権現

た-203	た-340	た-161	た-254
〔子聖権現造営争論留書〕 *表紙・一丁はた1254のもの、大損	〔子宮御鍵返却につき書状〕	奉差上預り一札之事（子聖宮御鍵二つ預書） *中損	〔大権現宮用留記〕 *後欠、中損
（寛政12年）	（寛政12）閏4月27日	寛政12年3月24日	（寛政10年霜月）
	南院内常専	天野二之宮神主丹生相見 （印）	（丹生李之助義督代）
	左近	南院御役僧中	
豎帳	状	状	豎帳

教良寺大明神

た-68	た-464	た-61	た-48	し-3
教良寺大明神上遷宮祭祝文	教良寺大明神御遷宮次第	教良寺大明神上遷宮祭文	遷宮祭文并祝言事（教良寺村氏神上遷宮）	遷宮祭文（教良寺村氏神下遷宮）
*中損	*中損	*大損	*大損	
元文元年11月30日	元文元年9月21日	享保元年9月26日	寛文13年7月7日	丙寅（寛文13年）
丹生相見広義	丹生相見広義	丹生相見	丹生相見広忠	丹生相見広忠
状	状・封紙	状・封紙	状	状

古佐布大明神

た-60	た-49
古佐布大明神上遷宮祭文	遷宮祭文（古佐布大明神）
*中損	
宝永3年9月16日	（延宝3年）
丹生相見広忠	丹生相見
状	状

た-85	た-474	た-80	た-475	た-75	た-470	た-72	た-71	た-160	た-468	た-466	た-65	た-62
〔古佐布大明神上遷宮祭文〕	古佐布大明神上下遷宮記	古佐布大明神下遷宮祭祀文	古佐布大明神御遷宮記	古佐布大明神上遷宮次第	古佐布大明神上下遷宮記	古佐布大明神上遷宮祭祀文	古佐布大明神下遷宮祭祀文	乍恐奉願上口上覚（遷宮の儀は先例の通相見家が勤るよう仰せつけの旨）	古沢大明神上下遷宮記録	古佐布大明神上遷宮次第	〔古佐布大明神遷宮祭文〕	古佐布大明神下遷宮（祭文）
*不開	*中損	*大損	*表紙欠、小損	*不開	*大損	*大損	*小損	*水損	*中損	*中損	*前欠、大損	*大損
（慶応3年か）	慶応3年	慶応3年2月17日	（嘉永元年）	（嘉永元年9月8日）	天保3年5月上旬	天保3年3月晦日	天保3年2月17日	文化9年3月15日	寛政6年2月朔日	元文4年9月17日	享保4年11月4日	享保4年9月23日
（丹生相見富道）	丹生相見	丹生相見富道	丹生季之	（丹生相見季之）	丹生相見季之（花）	丹生相見季之	丹生相見季之	丹生相見（印）〔奥〕天野惣神主家名跡預り中橋嘉兵衛	丹生相見広勝	丹生相見主計広義	丹生相見主計広義	丹生相見広義
								年預代				
状・封紙	縦帳	状・封紙	縦帳	状・封紙	縦帳	状・封紙	状・封紙	状	縦帳	状	状	状・封紙

丹生家 二之宮祝子（他社奉仕―古佐布大明神）

丹生家 二之宮祝子（他社奉仕―その他／争論―吉田家裁許状一件）

その他

た-131	た-465	た-67	た-58	た-52	た-50
〔浜田村蟻通明神事執行依頼状〕	四村大明神御上遷宮次第（星川村八王子社） *標題脇に「八王子」と注記、大損	四村大明神御下遷宮次第（星川村八王子社）	下村八王子上遷宮祭文	紀州天野王里村柳之沢御宝殿就遷宮奉請十方神施之他力之状 *中損	下遷宮祭文并祝言（東富貴村鎮守大明神） *中損
6月26日	元文元年11月20日	元文元年10月10日	元禄17年正月吉日	元禄7年10月日	貞享3年今月吉日
東西浜田村地頭年番（印）	丹生相見広義	丹生相見主計広義	丹生相見	願主天野王里村中	丹生相見広忠
丹生相見					
状・封紙	状	状	状	状	状

争論

吉田家裁許状一件

た-145	た-137-3	た-137-2	た-137-1	た-137
天野一宮神主二宮相見神職争論留書 *大損	元和・寛永・万治・寛文相見家公私留書 *後欠、大損	天野一宮神主二宮相見神職争論留書 *大損	天野一宮神主二宮相見神職争論留書 *大損	丹生相見家記 争論記 他見無用 *三冊合冊し新たに表紙添付、大損
元和元年より享保元年	（元和元年）寛文	元和元年より享保元年	元和元年より享保元年	
修禅院懐英扣記		修禅院懐英扣記	修禅院懐英扣記	
竖帳	竖帳	竖帳	竖帳	

か-7-6	か-7-2	た-136	た-136	た-104-6	た-104-5	た-104-4	た-136	た-136	た-104-3	た-104-2	た-136	た-7-1	た-140
〔裁許状遣わす旨書状〕	神道裁許状	⑦〔誓紙遣わす旨書状〕	⑥天罰起請文之事	〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	④〔御朱印仰せ付けの様子を伝える書状〕	③〔御朱印写遣わし状〕	〔新儀の興行を改めるべき旨書状〕	〔新儀の興行を改めるべき旨書状〕	①〔御朱印写〕	神道裁許状	〔争論経過覚書〕
(元和9) 閏8月25日	元和9月 閏8月25日	(元和元) 8月21日	元和元年 8月20日	(元和元か) 8月20日	(元和元か) 8月20日	(元和元か) 8月20日	(元和元) 8月13日	(元和元) 8月12日	元和元年 8月12日	元和元年 8月12日	元和元年 7月7日	慶長16年 12月25日	(慶長16年 12月25日 寛文5年 2月7日)
吉田内鈴鹿采女正 治忠 (花)	神道管領長上下部朝臣兼英 (花)(印)	大楽院	天野二宮祝子相見	学侶年預	学侶年預	学侶年預	大楽院	年預花蔵院	衆議衆中 年預	衆議衆中 年預	(徳川家康)	道神管領長上下部朝臣(花) (印)	
丹生相見太夫	(丹生義継)	惣神主一丸	学侶御衆議中	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	惣神主一磨	惣神主一磨		(丹生義久)	
折紙	状			折紙	折紙	折紙			折紙	折紙		状	状

丹生家 一之宮祝子(争論—吉田家裁許状一件)

た-136	た-234	た-250	た-136	た-104-1	か-7-5	た-136	た-104-10	た-104-9	た-104-11	た-104-12	か-7-4	た-104-8	た-104-7
〔遷宮、出入りについて公儀よりお尋ねにつき来春二十日頃下向の旨書状〕	乍恐申上条々（祝詞・祓・装束停止につき申し状） *端裏「慶安〇年 相見先祖より年預へ差上候神主控之事」大損	乍恐謹而言上（惣神主の装束・社役儀式につき吟味願） *大損	⑭〔吉田兼英書状の旨を伝える書状〕	〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕	〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕 *136 ⑬も同	⑪〔社家中諸事法度古法のごとくの仰せ付けは尤もである旨書状〕	〔相見新儀を改めるべき由の仰せ付けを衆議一同に申し入れる旨書状〕 *136 ⑫も同	〔碩学中申渡に異義なき旨書状〕 *136 ⑩も同	〔相見は装束社役等三四宮祝子のごとく申付の旨書状〕 *136 ⑨も同	〔相見は諸事社役等三・四宮祝子のごとき旨書状〕 *136 ⑧も同	〔相見裁許は新義ではない旨四社明神の社家以下へ仰せ聞かせる旨依頼状〕	〔二宮祝子新義非例について江戸御奉行沙汰に仕り度につき書状〕	〔二宮祝子新義非例について江戸御奉行沙汰に仕り度につき書状〕
（万治元か） 閏12月23日	（慶安年中か）	（寛永元年か）	（寛永元か）霜月24日	（寛永元か）11月18日	（寛永元か）11月18日	寛永元年9月16日	寛永元年5月16日	寛永元年4月28日	寛永元年4月28日	寛永元年4月28日	（元和9か）12月11日	（元和9か）10月22日	（元和9か）10月22日
宝性院玄（玄有か）	相見	相見太夫	知足院	吉田兼英	吉田兼英	無量寿院栄雄	年預坊	宝性院有盛	如意輪院 御庵室 味院 積迦文院 西南院 金剛三	正知院 御庵室 西南院 味院 正知院 御庵室 西南院 味院 正知院 御庵室 西南院 味院	吉田兼英（花）	天野惣神主秀澄	天野惣神主秀澄
天野神主	年預代	指上ル号	天野惣神主	知足院	知足院	天野神主一磨	天野神主一麻呂	天野神主一磨	天野社家供僧惣中	天野惣神主一麻呂	高野山無量寿院 宝性院 碩学之御中 御同宿中	知足院	知足院
	状	状		折紙	折紙		折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙

た-492	た-190 -2	道中駄賃帳 *不開丁あり、大損	神主与相見出入之留 *二冊合冊の下、大損	享保3年8月14日	享保3年3月より12月迄	紀州丹生相見	丹生相見		横半帳	縦帳
た-104	た-233	た-136	た-223	た-226	た-149	た-148	た-144	た-147	た-141	た-141
【吉田家裁許状一件関係書状写貼継一括】↓ 12点 *該当年月日個所へ	神主非例を内記受不申候覚 *内記宮入にさいし神主新義書物に対する返答書、中損	⑯紀州天野丹生明神惣神主就訴訟相見内記召寄申渡覚	〔社家中申し状に対する返答書〕 *前欠	覚(惣神主継目次第) *た148の一つ書きと同、大損	覚(惣神主継目次第) *た148の一つ書きと同、小損	〔装束・祝詞幣争論につき社家中申し状〕 *大損	紀州天野丹生明神惣神主と相見と就訴訟申渡覚 *136⑮も同、後欠	乍恐申上返答条々(惣神主訴状への相見より返答書) *大損	⑳〔来月中に江戸参着の旨書付〕 *小損	㉑乍恐申上条々(相見の装束・祝詞幣の新儀について訴状) *小損
		(寛文8年)				万治4年3月16日	(万治2年6月18日)	万治2年5月18日	亥(万治2)3月27日	万治2年3月27日
		井河内 板阿波	(丹生相見)			三祝子利清 四祝子家澄 外社家11名 供僧6名	(井上河内守・板倉阿波守)	高野明神之神主丹生相見	阿波 河内	天野惣神主丹生一磨 同丹 生将監
								寺社御奉行所	二ノ宮祝相見	御奉行所
								状	状	状

相統願書・木祭神役ほか一件

丹生家 二之宮祝子(争論)吉田家裁許状一件、相統願書・木祭神役ほか一件)

た-130	ふ-60	た-350	た-128	た-188	た-196	た-245	ふ-33	た-229	た-228	た-200	か-12-1	か-12-1	た-190-1
〔呼出状〕	〔呼出状〕	〔證文お遣わしほか近況報告書状〕	口上（社家方古目録、社役につき）	享保三戌年学侶方より御返答書之写 *196への返答書、大損	①紀州伊都郡高野山鎮守天野丹生明神社人二宮之祝子相見式部 訴状差上返答書被為仰付奉畏乍恐言上之覚 / ②統而言上之覚 *中損	覚（訴状請取） *大損	〔訴状提出のさいの添え状・差紙返事書式写〕	乍恐口上覚（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *大損	乍恐口上書以申上候覚（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *大損	願書并御裏書写（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *神社奉行の裏書あり、大損	●〔対決につき呼出状〕	①乍恐口上書申上候覚（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *押紙（公儀江差上願書）	御奉行所江罷出候日次 *二冊合冊の上、大損
*小損		*大損	*中損					*大損					
（享保3）11月24日	（享保3）11月2日	（享保3）閏10月14日	（享保3）閏10月14日	享保3年	享保3年10月	戊（享保3）9月晦日	（享保3年9月か）	戊（享保3）9月	戊（享保3）9月	享保3年9月	戊（享保3）9月28日	戊（享保3）9月	享保3年9月8日
土井伊予守役人	土井伊予守役人	留守中	役人		丹生惣神主丹生将監	惣神主（印）		丹生相見 同主計	丹生相見太夫 同主計	（丹生相見 同主計）	伊予 対馬 因幡 修理	（印） 丹生相見（印） 同主計	丹生相見 同主計
丹生相見 同主計	高野丹生相見 同主計	丹生主計			寺社御奉行所	二祝子主計		寺社御奉行所	寺社御奉行所御役人中	（寺社御奉行所）		寺社御奉行所	
状	状	状	状	状	卷子	状	折紙封紙	状	状	豎帳	状	状	豎帳

た-178	二宮相見社役滞之一件留 *寛延2~宝曆3の「社家覚(諸事留書)」あり、大損	延享4年6月(寛延2年正月27日)	丹生広元		縦帳
た-230	草案 乍恐奉窺口上覚(二之宮社役三祝子二相動させ候につき) *後欠、大損	(享保7年3月28日以降)			状
二之宮代勤一件					
た-348	〔去十七日以降の主計方成行につき書状〕 *後欠	(享保3年か)	春龍	江戸相見へ	状
た-312	〔御出入筋の首尾につき書状〕 *大損	(享保3年か)	巴陵院	(相見江戸江)	状
た-146	江戸下着前高野御吟味享保三年 御公儀江罷出候日並 同日並 被仰渡書 御公儀上ル願書 中 他見無用 *後欠、大損	(享保3年)			縦帳
た-138	〔相見訴状、惣神主将監返答書写し〕 *表紙欠、将監返答書後欠、大損	(享保3年)			縦帳
た-225	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状5枚
た-218	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状
た-217	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状
た-216	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状
た-215	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	卷子
た-201	御裁許写(争論裁許請書) *中損	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	縦帳

丹生家

二之宮祝子(争論)相続願書・木祭神役ほか一件、一之宮代勤一件、一社役滞り一件)

丹生家 一之宮祝子（争論―社役滞り一件、―南院様御供調進一件／久留里藩黒田家）

た-198	た-197	た-195
差上申一札之事（隠居、社役入り争論裁許請書）	差上申一札之事（隠居、社役入り争論裁許請書）	〔惣神主へ隠居願差し出しにつき申渡寛〕
*大損	*小損	*小損
寛延2年正月	寛延2年正月	辰（延享5）7月11日
惣神主付一宮手長佐七郎 惣神主右近後見四祝子 天野惣神主丹生右近	相見一家惣代狭間惣七 天野宮二祝子丹生相見	年預代
御年預坊		丹生相見
縦帳	巻子	巻子

南院様御供調進一件

た-235	た-231	た-163	た-213	た-162
乍恐奉願口上寛〔惣神主不在の際の献餞につき〕	〔惣神主不在の際の献餞につき伺い〕	乍恐奉窺口上寛（惣神主不在の際の献餞につき）	一之宮相互之留書（南院様の御供え調進に關して争論）	一之宮二之宮相互之留書（南院様のお供え調進に關して争論）
	*後欠、大損	*小損	*板状、不開	*小損
（明和8年10月）	（明和8年10月）	明和8年10月12日	明和8年10月吉日	明和8年10月吉日
		天野丹生相見	丹生茂勝書之	丹生茂勝書之
		年代		
状	状	状8枚	横半帳	横半帳

久留里藩黒田家

ふ-52	た-202-3	た-202-2	た-202-1
〔豊前守年賀礼状〕	〔年賀状ひかえ〕	〔年賀状ひかえ〕	黒田大和守殿江年頭書翰留記
*大損			*袋綴じ内文書以下へ大損
（文化3）正月28日	正月5日	正月5日	寛政11年正月5日
右衛門 森五郎兵衛 森四郎兵衛 戸川平次兵衛 宇佐美次郎 土屋市兵衛（全花）	丹生相見茂勝（花）	丹生相見季之（花）	丹生相見重元義督代
丹生相見	黒田鶴松様御用人中	黒田豊前守様御用人	
折紙	状	状	縦帳

丹生家 一之宮祝子(久留里藩黒田家)

ふ-43	ふ-24	ふ-11	ふ-55	ふ-21	ふ-16	ふ-13	ふ-22	ふ-46	ふ-34	ふ-37	ふ-28	た-314	ふ-58
〔豊前守年賀礼状〕	〔鶴松年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔鶴松年賀礼状〕	〔大和守様へ年賀状のひかえ〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔年賀礼状〕
*大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*大開	*小損	*大損	*中損	*中損	*小損
正月25日	正月25日	正月25日	正月23日	正月23日	正月23日	正月23日	正月22日	正月11日	(文政3) 正月27日	(文化9) 正月	(文化7) 正月28日	(文化6) 正月25日	(文化4) 正月28日
木本九郎兵衛(花)	右衛門 蔵森二田原要人(全花)	山田与一右衛門 宇佐美順 右衛門 森一郎左衛門 戸川新 白井宇右衛門 宇佐美金五 岸惣兵衛 岡本十郎左衛門 衛門(全花)	井宇右衛門 宇佐美金五右 水沼寛大夫 田代多宮 白 堀口善左衛門(全花)	岡本十郎左衛門 村松官治	衛門 宮崎五郎左衛門 新井浅右 沼寛大夫(全花) 出水平学	村山治大夫 山本丈大夫 門馬九左衛門 山本丈大夫 右衛門 岡本十郎右衛門 (全花)	戸川新右衛門 田原要人 石川九郎兵衛 宇佐美次郎 右衛門 岡本十郎右衛門 (全花)	丹生相見広元(花)	杉原右門 土屋百度兵衛 村松寛馬 松井族(全花)	平次兵衛(全花) 戸川川 口良助 森四郎兵衛 戸川 松井族 寺田源左衛門 佐美次郎右衛門(全花) 宇	大森友弥 戸川平次兵衛 森四 郎兵衛 戸川平次兵衛 宇	川口良助 森四郎兵衛 戸 川平次兵衛 宇佐美次郎右 衛門 土屋市兵衛(全花)	川口良助 森四郎兵衛 戸 川平次兵衛 宇佐美次郎右 衛門(全花)
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	水沼寛大夫 高崎五郎右衛門(消) 出水平 学 村山治大夫 山本丈大夫 門馬九左衛門	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見
折紙	折紙	折紙	折紙	状	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙

ふ-10	ふ-63	ふ-61	ふ-54	ふ-53	ふ-50	ふ-45	ふ-41	ふ-29	ふ-25	た-352	た-333	ふ-65	ふ-6
〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守武運長久御祈禱礼状〕	〔大和守武運長久祈禱の初穂料金二百疋遣わす旨書状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔帰着の旨の書状への豊前守返書〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔鶴松年賀礼状〕
*大損	*中損	*大損	*小損	*大損	*中損	*大損	*大損	*中損	*大損	*大損	*大損	*大損	*小損
正月29日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月26日	正月26日
宮崎五郎左衛門 水沼寛大夫(全花)	川口良助 森四郎兵衛 川平次兵衛 宇佐美次郎右衛門 土屋市兵衛(全花)	大森弥次兵衛 村山治大夫 榎本十兵衛 森平太兵衛	宮崎五郎左衛門 岡本太郎 八土屋市兵衛 山田与一 右衛門 森二郎左衛門(全花)	門馬九左衛門 白井字右衛門 門日比野孫兵衛(全花)	戸川孫大夫(花)	水沼寛大夫 田代多宮 佐美金五右衛門(全花) 宇	衛門 柳六郎兵衛 土屋百度兵衛 川口良助(全花) 本田源左衛門	宮崎五郎右衛門 岡本太郎 八土屋市兵衛 山田与一 右衛門 森二郎左衛門(全花)	宮崎五郎左衛門 岡本太郎 八土屋市兵衛 山田与一 右衛門 森二郎左衛門(全花)	堀口善左衛門 長岡佐伸 宮本理右衛門(全花)	木本九郎兵衛(花)	岡本十郎左衛門 門馬九左衛門 白井字右衛門(全花)	松井才兵衛 山田与一 右衛門 門木村二郎左衛門 戸川孫大夫(全花)
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生花押	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見 同主計	丹生相見	丹生相見
折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙

丹生家 一二之宮祝子(久留里藩黒田家)

ふ-36	ふ-49	ふ-59	ふ-14	ふ-62	ふ-17	ふ-8	ふ-30	た-319	た-315	ふ-7	た-335	ふ-64	ふ-56
〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔三五郎年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔社職相統の書状につき鶴松より返書〕	〔返書不着の問い合わせにつき返答書状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔鶴松年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕
*大損	*大損	*大損	*中損	*大損	*中損	*中損		*大損	*小損	*大損	*大損	*大損	*大損
2月17日	2月16日	2月15日	2月15日	2月14日	2月13日	2月13日	2月7日	2月7日	2月7日	2月6日	2月5日	正月	正月29日
出水平学 土屋市兵衛 (全花)	門馬九左衛門 日比野孫兵衛 (全花)	衛村松寛馬 衛門大森恵助 神山安左衛門 村松官治 (全花)	堀口善左衛門 岡本十郎左衛門 (全花)	崎山治大夫 水沼寛大夫 字佐美金五右衛門 (全花)	新井浅右衛門 水沼寛大夫 字佐美金五右衛門 (全花)	新井浅右衛門 水沼 覚大夫(花)	木本九郎兵衛(花)	右衛門森次郎左衛門 宮崎五郎右衛門 八土屋市兵衛 山田与一 右衛門森二郎左衛門 岡本太郎 八土屋市兵衛 山田与一 右衛門森二郎左衛門 岡本太郎 (全花)	新井浅右衛門 水沼寛大夫 宇佐美金五右衛門 (全花)	衛門水沼寛大夫 新井浅右 衛門水沼寛大夫 (全花)	右衛門(全花) 石川九郎兵衛 宇佐美次郎	戸川新右衛門 田原要人	木本九郎兵衛(花)
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生李之助(義督)	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見
折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	状	折紙	折紙	折紙	折紙

ふ-18	ふ-19	ふ-38	ふ-35	ふ-48	ふ-27	ふ-20	ふ-40	ふ-23	ふ-5	ふ-15	ふ-44	ふ-2	た-320	
〔亡父相見跡主計相続の報につき大和守より返書〕	〔爰元江御出之儀の日時伺につき書状〕	〔豊前守役儀就任御歎状返書〕	〔大和守娘の病氣平癒のお札受け取り礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守病氣平癒祈禱礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔三五郎年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	
*大損		*小損	*大損	*大損			*大損	*大損	*小損	*中損	*中損	*上部欠損、大損	*大損	
12月2日	閏10月17日	5月25日	3月	3月15日	3月15日	3月15日	3月10日	3月2日	2月16日 ⁽²⁾	2月29日	2月28日	2月21日	2月21日	
新井浅右衛門(花) 水沼 覚大夫(花)	黒田豊前守内 木本九郎兵 衛	木本九郎兵衛(花)	大森弥次兵衛 門馬九左衛 門 村山治太夫(全花)	岡本十郎左衛門(花) 宇 佐美金五右衛門(花)	岡本十郎左衛門 門馬九左 衛門 白井宇右衛門(全花)	千葉貞蔵 吉田禎蔵 杉浦 八郎左衛門 松井徒門(全 花)	土屋市兵衛 宮崎五郎左衛門 門馬部	村山治大夫 出水平学 沼覚大夫(全花)	松覚馬(全花) 山本丈大夫 門馬九左衛門 杉原右門 村 榎本十兵衛	新井五百右衛門 大森恵助 新井五右衛門	村山治大夫 出水平学 宮 崎五郎左衛門 水沼覚大夫 (全花)	白井宇右衛門(花) 宇佐 美金五右衛門(花)	宮崎五郎左衛門(花) 水 沼覚太夫(花)	出水平学 宮崎五郎右衛門 新井浅右衛門 水沼覚太夫 (全花)
丹生主計	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	
折紙	状	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙封紙	折紙	折紙	折紙封紙	折紙	折紙	折紙	折紙	

ふ-31	〔年賀礼状〕	*不開				折紙
ふ-26	〔大和守年賀礼状〕	*大損			門馬九左衛門 白井字右衛門 日比野孫兵衛(全花) 村山治太夫 出水平学 宮 崎五郎右衛門 水沼寛太夫	丹生相見
た-353	〔豊前守御役付・加増の旨報告につき書状〕	*大損	□月15日			丹生相見

書状

た-324	〔身元進上書状〕	*石見惣光寺法印、豫州公御役人矢野五郎右衛門、中損	8月	成院	丹生氏	状
た-325	〔金堂の上棟につき書状〕	*小損	8月14日	利継(花)	広義公	折紙
た-347	〔予州公御普請・行方徳蔵院青巖寺不参不屈き・公儀御祈禱につき書状〕	*丹生相見公儀祈禱丹精の旨	4月9日	釈迦文院本寂(花) 多聞 院咏遍(花)	青巖寺検校尊老	折紙
た-313	〔年頭加賀行出僧ほかにつき書状〕	*下部小損	3月11日	天徳院	天徳院留主居中	状
た-334	〔兵庫儀明十九日出立につき書状〕	*中損	(弘化2か)1月18日	同院	天徳院留主居中	折紙
た-327	〔組頭の御召・出立につき書状〕	*「四日着」とあり、中損	(天保14年5月か)21日	同院より	天徳院留主居中	状
た-323	〔行人方組頭一件相片付、今日学侶方寄合入札につき書状〕		(天保14か)4月28日	天徳院内より	天野丹生相見	状
た-354	〔行人学侶組頭入札につき書状〕	*小損	(天保14か)4月13日	同院より	天徳院留守居中	状
た-349	〔戸田日向守殿より学侶行人双方へ入札仰渡につき書状〕		(天保14か)4月11日	天徳院	丹生氏	状
た-316	〔教光院事・御祈禱・天野神主、丹生相見事はかにつき書状〕		(享保6年以前) 11月19日	天徳院問津(花)	権検校	状

丹生家 二之宮祝子(久留里藩黒田家/書状)

丹生相見家

系図

つ-25	つ-24	た-507	た-257	た-238	た-103	か-11-2	た-31	か-11-1	か-1-2	か-1-1
丹生神主系図	紀伊天野丹生家継系図 *青焼きコピー	丹生氏系図 *巻紙 万年筆書	丹生相見系図(本系帳注釈書) *鉛筆書入れ	[相見家由緒] *後欠	[丹生祝氏本系帳注釈書]	[丹生氏系図]	神職司祝之祭文 丹生相見天祖之系(本系帳注釈書)	丹生祝氏籍記	丹生祝氏籍記并序 *押紙「雲石堂自筆系図」序「天和癸亥八月十六日」	[丹生祝氏本系帳] *押紙「延暦巻系図」、町史
平成元年2月調之							(安永9年7月27日)	貞享元年8月16日	貞享元年8月16日	延暦19年9月16日
							等持院長慎	寂本	寂本	
卷子巻	卷子巻	状巻紙	縦帳	状	巻紙	状	縦帳	元縦帳	状	状

丹生家 丹生相見家(系図)

婚姻

ふ-39	た-487	た-341-3	た-488	た-493	た-344
目録（高室院より進物）	婚姻祝儀帳	〔離別状送り状〕	暇遣隙状之事	婚礼祝儀払（若山藤井唯三郎養子）	〔唯三郎縁談整につき書状〕
*あり・木綿・足袋など、小損	*小損		*町史、小損	*小損	*小損
（弘化3年5月26日）	弘化3年5月26日	（天保15か）11月4日	天保15年11月日	天保12年9月10日	（天保12か）5月28日
（高室院）	丹生恵十郎	天徳院	藤井唯三郎		角田利七 山門勘兵衛 藤井伝左衛門
寺中清左衛門 寺中御内室 四祝子 御湯太夫 他11名		丹生相見	丹生氏 智恵丈		丹生相見
状	横帳	状	状・封紙	横帳	状・封紙

勸進・合力

年預拝借金

た-407	た-405	た-406	た-159
奉願口上覚（拝借金二十年賦願）	御年預坊拝借銀を以請払帳 *裏表紙墨書「式部広勝死去之砌」中損	奉差上御請書之事（金子拝借につき）	乍恐奉願口上覚（金二十両拝借につき）
*中損		*小損	*父大損
文化8年10月日	文化6年12月吉日	文化6年12月	文化6年11月日
願主丹生相見（印）	菊谷栄助 あらみ西重太夫	天野丹生相見 一家菊谷栄助 一家西重太夫	天野村願主丹生相見（印） 安良見村一家惣代西重太夫（印）
年預代		歳預代	年預代
状	横帳	状	状

丹生家 丹生相見家（婚姻／勸進・合力）年預拝借金

学侶行人相對勸化

た-382	た-381	た-373	た-417 -2	た-158 -3	た-376	た-417 -1	た-158 -2	た-158 -1	た-158	た-374	た-356	た-372
勸進帳（学侶方）	勸進簿（行人方）	勸化金請取帳	覚（取替置筋受取）	乍恐奉願上口上覚（行人方勸化願）	勸進簿 全	勸銀受取覚	乍恐奉願上口上覚（学侶方勸化願）	乍恐奉願上口上覚（五ヶ年之間支分銀延引につき）	〔一括封紙〕 ↓以下詳細 *墨書「高野山行学勸化之節差出し候願書三通入」	高野勸化日並	天野大明神施講	〔合力につき勸進帳〕
*中損	*中損	*中損	*縦紐に結付	*中損	*た1382の浄写本、中損	*中損	*大損	*大損		*中損	*内題「天野丹生相見家神施講」中損	*大損
（文化14年）	（文化14年）	文化14年霜月吉祥日	文化14年霜月8日	文化14年11月5日	文化14年2月日	（文化14年2月21日） 7月24日	文化14年正月25日	文化13年11月		文化13年6月吉日	宝永8年3月日	万治3年極月21日
丹生相見		丹生相見	寺中庄蔵（印）	天野丹生相見（印）	発起世話人悉地院寛心（花） 同定光院宥寂（花）		丹生相見弟同左京 一家惣 代庄蔵	天野丹生相見一家惣代同所 庄蔵（印）安良見村西十太 夫（印）		丹生相見右京季之		
			丹生相見	興山寺様御役人明慶院			年預代	年預代				
縦帳	縦帳	横帳	状	状	縦帳	横帳	状	状	封紙	縦帳	縦帳	縦帳

装束・神事道具等勸進

た-375	二之宮天野宮御装束御寄進注文	*大損	貞享3年霜月16日	年預坊(印)	天野二之宮相見	豎帳
た-378-2	乍恐口上覚(舞楽執行につき家普請・装束新調の助勢)	*中損	文化10年閏11月日	丹生相見		豎帳
た-378-3	勸化帳(神役入り・装束)	*中損	文化13年極月日	天野二ノ宮神主丹生相見 世話人卯兵衛(印)吉左衛門(印)		豎帳
た-378-5	勸化帳(神役入り・装束)	*大損	子(文化13)極月日	天野二ノ宮神主丹生相見 世話人前川宇兵衛(印)大嶋吉左衛門(印)		豎帳
た-378-4	勸進帳	*大損	(文化14年)	丹生相見		豎帳
た-378-1	勸化帳(装束神事道具調替)	*合冊	未2月	天野二ノ宮神主丹生相見 (印)		豎帳
た-418	覚(装束代金受取)		7月2日	いづみ屋平兵衛(印)	相見	状
た-380	天野明神御鑰袋并御影向所御戸帳勸化帳	*不開丁あり、大損		丹生相見		豎帳

明神講

た-404	指上申一札之事(金二十両借用)	*大損	天明5年12月16日	講親天野丹生式部(印) 【奥】天野村御湯太夫(印) 同村一家代栄助(印)	惣持院様御納所	状
た-360	明神講譜定	*中損	文政5年4月 (天保7年4月)	講親丹生相見(印)請人大 楽院同修禪院(印消)		豎帳
た-361	明神講譜定	*中損	文政5年4月 (天保7年4月)	講親丹生相見(印)請人大 楽院(印)同修禪院(印消)		豎帳
た-362	明神講勸定帳	*中損	文政5年4月日	丹生相見		横帳

丹生家 丹生相見家(勸進・合力・装束・神事道具等勸進、明神講)

丹生家 丹生相見家（勸進・合力）明神講／売買貸借

た-330	〔講銀借用幹旋につき書状〕	*大損	11月21日	西良斎	丹生相見	状
た-364	奉願口上覚（善集院丹生院釈迦文院へ講金返納仰付につき）	*中損	文政12年10月12日	天野二ノ祝子丹生相見	年預代	状

売買貸借

た-142	〔銀子借用証写〕	*奥書「丹生左近大夫時亨之置也」封紙再利用、大損	元和2年12月9日	天野相見甚八郎	興山寺愛 <small>（兼之）</small> 院	状
た-396	売渡田之事	*大損	慶安2年12月23日	売主甚十郎（花）サハキテ 甚三郎（花）	内記	状
た-397	売渡田地之事	*奥上大損	慶安2年12月24日	売主甚三郎 郎左衛門尉 （金花） 庄人波砂間太 郎屋甚十郎	源太郎□□	状
た-398	〔銀子借用証〕	*小損	宝永4年極月23日	借主勘十郎（印）請人平助 （印）	庫藏院内善秀坊	状
た-399	一札之事（銀子借用）	*小損	正徳5年極月28日	惣介（印）	相見	状
た-386	借用仕銀子之事	*上部やぶれ	正徳6年4月17日	庵ノ賢心（印）	相見	状
た-387	拝借銀筋覚帳	*中損	元文5年7月吉日	丹生相見主計	横帳	帳
た-402	預り申銀子之事	*中損	元文5年8月11日	狭間惣七（印）	丹生相見	状
た-403	預り申銀子之事	*中損	安永4年極月日	杉本左円（印）	三内	状
た-388	借用申銀子之事	*た-408の添付資料、中損	文政12年7月	借り主佐兵衛（印）請人勝 右衛門（印） 新右衛門 村役人	磯右衛門	状
た-409	讓渡申證文之事（山林）		天保2年極月19日	譲り主庄之辻佐兵衛一家 藤四郎組庄屋杉本政之丞 〔裏〕村役人青垣内栄治 （全印）	丹生相見	状

丹生家 丹生相見家（売買貸借／頼母子）

た-365	た-414	た-412	た-491	た-416	た-415	た-393	た-167	た-413	た-411	た-390	た-408	た-410
差上申一札之事（受人惣持院へ難渋かけぬ旨） *た414にかかわる、小損	預り申金子之事 *小損	預り申銀子之事 *上部中損	萬覚帳（収納・年貢・雇入・金銀入・金銀出・貸借覚等） *不開丁あり、大損	金銀貸方扣 *表紙「乙」	本銀に返り田地返り證文之事 *小損	借用申金子之事（大楽院用金22両借用） *嘉永4年12月金子受取の旨一乗院の追記あり、た351も見よ、小損	意得書（金銭貸借覚） *表紙「甲」	譲り渡シ山畑之事	売渡申山林之事 *封紙上書「湖谷山林讓狀」中損	借用申金子之事	譲り渡申證文之事（山林） *小損	讓渡申證文之事（山林） *た411の添付資料、小損
嘉永2年3月	嘉永2年3月	天保14年霜月	文久4年正月吉辰	万延元年12月日 （明治2年4月）	嘉永5年極月	嘉永2年12月	天保15年（明治3年）	天保15年正月日	天保12年極月日	天保9年12月30日	天保2年極月	天保2年極月19日
湯太夫（印） 本人丹生相見（印） 受人御	院請人（印消） 院請人大楽院（印消） 同惣持	預り主（垣か） 紋重郎（印） 主西十太夫 庄屋	丹生相見	丹生民部	丹生相見（印）	本人八塚正左衛門（印） 受人丹生相見（印）	丹生相見季之	譲り主 松谷勇治（印） 【裏】村役人中谷源八郎	寺中清左衛門（印）	宇平治（印） 源八郎（印）	左兵衛 譲り主庄之辻左兵衛（印） 受人勝右衛門（印） 【奥】	譲り主庄之辻佐兵衛一家 【裏】村役人栄治（全印） 本政之丞
惣持院	一乗院	稲荷講御衆中			前垣内万蔵	取次一乗院		相見	丹生相見	相見	丹生相見 寺中久弥	寺中久弥
状・封紙	状・封紙	状・封紙	横半帳	横半帳	状・封紙	状	堅帳	状	状・封紙	状	状	状

頼母子

丹生家 丹生相見家（頼母子／普請）

た-357	た-351	た-368	た-369
〔頼母子定書〕	〔正左衛門頼母子経営、大染院用金返金につき書状〕	実助講掛金之通	永統講掛金請取帳
*前後欠	10日	慶応3年9月	慶応元年12月
	一乘院	泰治（印）	啓介（印）
	丹生相見	丹生相見	丹生相見
状	状	横半帳	横半帳

普請

た-37	た-478 -2	た-479	た-478 -1	た-480	た-486 -1	た-477	た-486 -3	た-486 -2
狩場明神上棟留記	屋根葺替日記	蔵・部屋・薪屋普請諸払覚帳	屋根葺替日記	襖張替留記	水船造作留記	天野丹生相見家内畳致替合力金目録	屋普請入用銀勘定帳	屋普請入用銀勘定帳
*中損	*二冊合冊の下、中損	*中損	*二冊合冊の上、中損	*不開丁あり、大損	*三冊合冊の上、不開丁あり、大損		*三冊合冊の下、大損	*三冊合冊の中、大損
文政5年2月12日	明治2年8月吉辰	弘化2年極月	天保2年4月吉辰	文政11年9月	文政9年7月吉辰	享保5年正月吉日	正徳3年7月吉祥日	正徳3年7月吉祥日
丹生相見季之	丹生相見民部代	丹生相見右京季之	丹生相見季之	丹生相見季之	丹生相見	（聞次） 修禅院前檢校快英 （花）	天野宮丹生相見	天野宮丹生相見
						天野宮権神主丹生相見		
竖帳	竖帳	竖帳	竖帳	竖帳	竖帳	卷子	竖帳	竖帳

た-438	狩場明神上棟留記	*大損	安政5年8月晦日	丹生相見富道		帳
-------	----------	-----	----------	--------	--	---

水汲・道通し請書

た-496	一札之事（水汲許可につき請書）	*大損	寛保元年12月日	伝重郎（印）	丹生相見	状
た-497	一札之事（水汲許可につき請書）	*小損	安永3年正月日	喜内（印）	丹生相見	状
た-498	一札之事（水汲許可につき請書）	*中損	天明3年4月日	金助（印）	丹生相見	状
た-499	差入申一札之事（かけ樋にて水取込許可につき請書）	*大損	天明6年3月日	□し屋 金助（印）	相見	状
た-500	一札之事（水汲許可につき請書）	*小損	享和2年12月日	伏見屋岩助	丹生相見	状
た-501	一札之事（水汲許可につき請書）	*小損	文化14年極月日	伏見屋慶治（印）	丹生相見	状
た-502	一札之事（水汲許可につき請書）	*中損	弘化3年極月	伏見屋源兵衛（印）	丹生相見	状
た-503	一札之事（水汲許可につき請書）		嘉永7年閏7月日	半次郎（印）	丹生相見	状
た-504	〔所有地への道通し許可につき請書〕		寛文□年7月10日	勝九郎（印）	内記	状裏打ち
た-505	一札（所有地への道通し許可につき請書）	*少虫	元禄9年8月26日	五兵衛（略押）	丹生相見	状
た-506	一札之事（所有地への道通し許可につき請書）		享保3年3月9日	儀兵衛（印）	丹生相見	状裏打ち

丹生家 丹生相見家（普請／水汲・道通し請書）

丹生家 丹生相見家（争論／高野山御用―安楽川荘奥家尼岡争論）

争論

た-115	た-117	た-116	た-114	た-113	た-143	た-112	た-284
〔潮谷山林争論絵図〕	乍恐奉願口上覚（潮谷山林吉原屋龍景刈取につき吟味願） *封紙上書「証文 勇治」内容と合わない、「二通あり」	乍恐奉願口上覚（潮谷山林吉原屋龍景刈取につき吟味願）	喜代八株畑当時大工貞助ト湖谷山論扣	〔藪間数絵図〕	相見藪絵図間地写	相見所持藪田人三人嘉左衛門吉兵衛慶治願二付記 *後欠、大損	奉願口上覚（藪所刈払いにつき取り計り願） *中損
	9月日	9月日	元治元年11月日		文政13年2月3日	文政12年4月（文政13年3月3日）	文政12年正月
	丹生相見（印）	丹生相見（印）	丹生相見民部代		丹生相見季之（花）	丹生相見季之	天野丹生相見（印）
	年預代	年預代					御年番所
状	状・封紙	状・封紙	堅帳	状	巻子	堅帳	状

高野山御用

安楽川荘奥家尼岡争論

た-118	た-108	た-107
暖状之事 *た-108へ続く、中損	〔暖状之事〕	安楽川李之助山論暖品覚 天野丹生相見日并 *大損
(宝永4年7月6日)	宝永4年7月6日	宝永4年4月28日
	暖人 東しふ田金 慈中 天野村丹／奥	暖人丹生相見 中橋勘之丞 金川清兵衛
	安楽川庄中	
状	状	堅帳

た-110	た-109
御尋二付申上口上覚(尼岡争論についてお尋ねにつき返答) *大損	覚(奥李之助山論暖日並記預かり証) *中損
寛保2年9月19日	寛保2年9月19日
天野丹生相見(印)	證菩提院(印)
年預代	丹生相見
状	状

上州清水寺

た-43	た-42	た-401	た-400	た-495	た-46	た-462	ふ-42	た-44	た-45
〔清水寺縁起資財書付〕 *中損、下部水損しみ	〔清水寺諸筆記写し取り持参の旨清水寺へ通達願〕 *小損	残りもの覚(預証) *中損	払物注文之覚 *大損	萬小遺帳 *大損	清水寺観音領已年貢割付 *中損	〔遺書〕(其方住職仕るべき旨) *中損	覚(祈禱執行継続につき) *大損	〔右京大夫所替につき二代は寄附継続の旨書状〕 *中損	〔清水寺観音御供料六十石寄附状〕 *封紙上書「観音御供料御証文 華藏山清水寺」 宝永2年12月17日
卯5月	天保5年3月23日	(享保2年か)	享保2年11月13日	享保2年9月26日	正徳3年10月	正徳2年8月3日	宝永7年6月17日	宝永7年6月17日	宝永2年12月17日
上州片岡郡石原村清水寺 (花)	上州群馬郡上大類村安楽寺 現住良長	高崎連尺町七兵衛(印)	立会 高崎連尺町七兵衛 同町□□兵衛 石原村十 蔵	智海	村松惣兵衛 川手万右衛門 三嶋所左衛門(全印)	清水寺当住持 賢隆(花)	松平右京大夫内浅井勝之丞	浅井勝之丞貞真(花)	松平右京大夫家臣浅井勝之 丞(花)
葛岡齊藤治						弟子 智海房	清水寺	清水寺賢隆	華藏山清水寺賢隆
状	状	綴り	横帳	横帳	状	状	状	状	状・封紙

丹生家 丹生相見家(高野山御用―上州清水寺)

丹生家 丹生相見家（高野山御用・巡見・登山、一藪庄屋、一差紙／年貢）

巡見・登山

た-489	た-123	た-122
阿州様御登山二付 多田恒吉様赤川佐太郎様 林栄治郎様 上 下廿八人御泊り算用書 *小損	御巡見記録 *大損	御巡見記録之覚 *町史、大損
嘉永6年 4月18日・21日	天保9年5月	享保元年極月17日
丹生相見	丹生相見右京季之	
堅帳	堅帳	堅帳

藪庄屋

た-283
千蔵院様藪庄年貢高帳 *中損
文政5年
丹生相見季之
堅帳

差紙

た-127	た-132
覚（相見三祝子年預坊への呼出状） *小損	差紙（年番所へ呼出状）
8月晦日	寅2月24日
年預代（印）	年番所清浄心院役人
丹生相見	上天野村丹生相見
状・封紙	状

年貢

た-290	た-308	た-289	た-288
皆済 *中損	指入申一札之事（荒地年貢米納につき） *大損	覚（皆済） *中損	覚（皆済） *小損
寛政元年12月日	明和9年月日	宝曆12年極月日	宝曆5年極月日
悉地院代官（印）	楽□相見 久八	悉地院代官（印）	悉地院代官（印）
相見	□ _(裏) 金八	相見	相見
状	状	状	状

丹生家 丹生相見家(年貢)

た-301	た-300	た-299	た-298	た-297	た-296	た-295	た-294	た-293	た-306	た-305	た-292	た-304	た-291
収納皆済之事	覚(皆済)	覚(皆済)	覚(皆済)	覚(皆済)	年貢皆済之事	覚(皆済)	覚(皆済)	年貢皆済之事	請取申数年貢之事	請取申数年貢之事	年貢皆済之事	受取申数年貢之事	年貢皆済之事
*大損	*大損	*大損	*裏書「新分」、大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*中損	*中損	*中損	*中損	*中損
明治3年12月日	明治2年12月日	慶応3年12月日	慶応2年12月日	慶応元年12月日	慶応元年極月	元治元年12月日	元治元年12月日	元治元年極月日	嘉永7年12月	嘉永7年12月	天保15年極月	天保14年12月17日	天保11年極月
上免庄屋許(印)	天ノ村上免庄屋許(印)	心南院代官(印)	心南院代官(印)	心南院代官(印)	悉地院代官(印)	心南院代官(印)	心南院代官(印)	悉地院代官(印)	千蔵院代官(印)	千蔵院代官(印)	悉地院代官(印)	千蔵院代官(印)	悉地院代官(印)
丹生相見	丹生相見	天野勝右衛門	天野勝右衛門	天野勝右衛門	天野村相見	天野宇平 <small>(遺)</small> □	天野勝右衛門	相見	岡村中	相見	天野邑丹生相見	岡村中	天野村丹生相見
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状

丹生家 丹生相見家（年貢／大念仏講／書状）

た-303	た-302
貢税皆済之事	貢税皆済之事
*大損	*大損
明治4年12月日	明治4年12月日
上天野村庄屋許（印）	上天野村庄屋許（印）
丹生相見	丹生相見
状	状

大念仏講

た-265	た-166	た-165	た-183
仏説阿弥陀経	定（大念仏講證明人につき）	天野大念仏彼是二付留記	覚（大念仏講のつとめ用捨につき）
*大損	*大損	*小損	*大損
	文政2年7月15日	文政2年5月吉辰	享保14年11月15日
	時当屋狭門惣太夫の場文 右衛門（印） 岩上磯右衛 門（印）	丹生相見右京季之	心南院納所
			丹生相見
巻紙	状	堅帳	状

書状

た-322	た-318	ふ-4	ふ-1	た-337	た-321
〔恵十郎帰山延引につき登山を勧める旨書状〕	〔畳調整の仲介書状〕	〔請人、勘定ほかにつき書状〕	〔近況報告書状〕	〔年始挨拶〕	〔江戸行きの成行報告及び礼状〕
	*添書あり、中損				
3月8日	2月27日	正月17日	慶応元年4月22日	（弘化2か）正月5日	（弘化元か）12月6日
高室院内 寺中隠居 八塚 定之進	大楽院納所	天徳院	（無量寿院）玩元	天徳院	丹生兵庫
丹生相見	丹生相見	丹生相見	天野宮司丹生相見へ	丹生相見	同相見
状・封紙	状・封紙	状	状・封紙	状	状

丹生家 丹生相見家（書状）

た-342	た-338	た-328	た-343	た-341-3	た-341-2	た-341-1	た-341	た-339	ふ-51	ふ-9	た-355	た-331	た-317
〔礼状〕	〔民右衛門儀につき書状〕	〔民右衛門儀につき書状〕	〔金子三両送り状〕	〔離別状送り状〕	〔願筋差控えにつき書状〕	〔呼出状〕	〔一括封紙〕	〔呼出状〕	〔近況報告書状〕	〔安否御尋書状返書〕	〔金子送り、米相場につき書状〕	〔登山依頼状〕	〔江戸よりの書状遣につき書状〕
*封紙はた-355のもの、大損	*大損	*大損	*中損				*書状三通重ね		*作成者脇に「十左衛門事」とあり、小損	*小損	*中損		*中損
4月22日	1月21日	1月15日	極月23日	(天保15か)11月4日	11月3日	11月2日夜六つ過		11月2日朝五つ半	9月18日	7月17日	7月8日	6月28日	3月20日
民右衛門	妙音院	妙音院	(西)良斎	天徳院	天徳院	天徳院内		天徳院内	内関主水重興(花)	葛野神永正秀(花)	民部	巴陵院	惟春
丹生相見	丹生相見 金子式部	丹生相見 金子式部	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見		丹生御氏	丹生相見	丹生主計	相見	丹生相見	丹生相見
状・封紙	状	状	状・封紙	状	状	状	封紙	状	折紙	状	状	状	状

丹生家 丹生相見家（書状／近代資料）

近代資料

つ-17	つ-14	つ-13	つ-21 -2	つ-21 -6	つ-21 -3	つ-5	つ-4	つ-3	つ-2	つ-1	た-345	た-329
〔国勢調査員任命書〕	〔臨時月手当金二円給与證書〕	〔奈良県宇智郡書記任官辞令〕	履歴書 *草稿あり	證（早稲田大学行政科終業証）	履歴書（学校関係）	〔陸軍召集諸費出納官吏任官辞令〕	〔月俸十円給与證書〕	〔伊都郡志賀村外七ヶ村戸長任官辞令〕	〔判任官十等叙位證〕	〔伊都郡書記任官辞令〕	〔民右衛門儀につき書状〕	〔民右衛門儀につき礼状〕
大正9年7月20日	大正7年6月22日	大正7年6月21日	（大正6年11月）	明治36年12月1日	（明治34年4月以降）	明治30年4月1日	明治29年9月14日	明治21年3月23日	明治20年12月26日	明治20年12月26日	□月17日	6月13日
内閣	奈良県	（奈良県）	丹生隆吉	早稲田大学	丹生隆吉	（和歌山県）	和歌山県	（和歌山県）	（和歌山県）	（和歌山県）	金子式部	野尻柳右衛門
丹生隆吉	宇智郡書記 丹生隆吉	丹生隆吉		丹生隆吉		伊都郡天野村長 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹	丹生徹	丹生相見	丹生相見
状	野紙	状	野紙	状	野紙	状	状	状	状	状	状	状

丹生家 丹生相見家（近代資料／天野村）

た-276	た-150	た-385	か-10-2	か-10-1
覚（組下入りにつき替紙）	〔雨請の笠鉾破損につき上村・下村済口証文〕	天野甚兵衛指引覚	〔山役水役出入り和談につき定〕	起請文之事（上天野と下天野喧嘩落着につき）
*大損		*中損		
元禄7年正月16日	貞享5年7月19日	貞享5年2月21日	慶長16年8月2日	慶長15年9月18日
本主勘兵衛 請人相見	法泉院快実	悉地院納所（花）	衛門 惣五郎 コウタムラ新左衛門 又右	下天野老若中 喜四郎 勝 右衛門 善左衛門 甚 郎 善四郎 善四郎 甚
心南院様御役人中		天野甚兵衛	天野庄中	上天野老若中
状	状裏打	折紙	状	状

天野村

つ-23	つ-21	つ-21-1	つ-22	つ-20	つ-19	つ-21-4	つ-21-5
〔封筒〕	〔一括封筒〕 ↓ 6点入	秘第二五二号 大礼記念章送付ノ件	〔賜饌拜戴式案内状〕	感謝状（国勢調査二関シ尽力につき）	〔国勢調査員任命書〕	〔勤儉奨励隅田村委員委嘱状〕	講習證（現代哲学一般）
*上部破れ		*印刷	*出席案内状・式次第・参入証など			*ガリ版	
		昭和4年8月12日	昭和3年11月1日	大正14年12月1日	大正14年8月1日	大正13年8月29日	大正12年8月29日
京都 伏見稲荷山麓 府社 東丸神社々務所	和歌山県伊都郡隅田村役場	和歌山県知事官房秘書課長	（宮内大臣 一木喜徳郎）	内閣統計局長從四位勲二等 下条康麿（印）	内閣	隅田村長北沢研祐（印）	和歌山県教育会伊都支会 （印）
丹生広義	丹生隆吉	県下大礼記念章拝受者	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉
封筒	封筒	状	封筒一括	状	状	野紙	状

丹生家 丹生相見家(天野村/その他)

た-459	た-309	た-379	た-126	た-124	た-33
〔太政官達〕(神職任用・氏子調べ)	乍恐奉願上口上(寺領内統髓子植付願) *下紙〔統髓子不出来の節は点検の上補銀する旨〕	救米勸進帳	御地方より相下り候御年預御廻文之写し(領内衰微防止につき)	覚(博奕の禁につき)	天野村掟書写
*大損		*町史、大損	*町史、大損		*丹生相見季之写、町史、小損
未(明治4)8月	嘉永元年6月	天保8年8月日	文政9年10月	文化3年極月日	天明8年12月 安政5年写
(太政官)	伊賀 西村愛之助(印)	丹生相見右京写之	丹生相見季之写	天野地頭年番所〔奥〕同村 中源五郎(印)三之祝子 甚吉(印)伏見(印)金助 (印)年行事相見(印)	地頭年番所正智院役人〔奥〕 宝性院外12院 社領代官蓮 台院
	年預代				天野村役人
縦帳	状	縦帳	縦帳	状	縦帳

その他

た-262	た-89	た-481	た-260	た-259	た-64	た-63
見聞雜記	〔つば・まじない本写〕	文久四甲子年方位撰	論語手帳俚諺	論語聞書	〔吉宗復書〕	〔朝鮮人使節献上物書付〕
*碑文の写しか、不開ヶ所あり、大損	*崩れ3枚		*不開、大損	*後半レシピ・薬の調合法あり、大損	*中損	*中損
		文久4年	文化12年4月良辰	文化12年4月吉日	享保4年10月	朝 享保4年9月27日来
	(丹生姓)				日本国源吉宗	
					朝鮮国王	
横半帳	横半帳	状	横半帳	横半帳	状	状

丹生家 丹生相見家（その他／写本・版本）

た-32	た-268	た-267	た-266	か-14 -2	た-264 -2	た-264 -1	た-264
六十騎組分姓名録 *黒江村尾崎次右衛門帳面写、大損	高野山説物語 第五 *中損	高野山説物語 第三 *中損	高野山説物語 第二 *五巻本の写、中損	皮張大明神之縁起并祭礼由来記 *丹生廣慶写、町史	六曜 *錦の表紙、表表紙はずれ、序「六曜題辞」内題「天軍六曜之巻」	〔祭事次第〕 *錦の表紙、本文前欠、表裏表紙はずれ、小損	〔箱〕 *つぶれている、「破軍巻」とあり
弘化3年7月	正徳4年仲秋下旬写	正徳4年仲秋下旬写	正徳4年仲秋下旬写	正徳3年5月吉祥日	天文元年8月望	天文元年8月15日	
丹生相見季之				高野山前左学頭修禅院僧都 懐英			
縦帳	写本和綴	写本和綴	写本和綴	状	折本	折本	

写本・版本

た-490	た-485	た-483	た-482	た-441
安中散（安中散調合法） *胃薬	浅草苔配進扣 *小損	相見（諸道具個数書上） *小損	覚（相見家弟子分書上） *中損	〔雑記帳〕 *五行ほか、中損
状	状	横半	状	横半帳

丹生家 丹生相見家(写本・版本)

た-269	た-258	た-440	た-270	た-261	た-35	た-461
紀伊国名所図会 三編 四之卷下 高野山	職原抄支流大全 卷之四	糸のゑん	秘書 古翫有	古今諷名寄	〔随筆文亨〕	葬祭略式
	*朱書入	*朱書入、歌あり	*生花の本、シミ	*朱書入、大損	*「あさかほの・・・」	*小損
(天保9年)	(天和3年)					(明治5年9月制定)
						瓊穂能止保留(丹生徹)
和綴本	和綴本	状	写本和綴	横帳	巻紙	写本縦帳